松山アーバン
デザインセンター
年間報告書

2021

Urban Design Center
Matsuyama
Annual Report

目次

はじめに 4

プロジェクトマップ 2021 6
Topic: COVID-19 と UDCM をとりまく状況 8

【Project】
Chapter 01: スマートシティ 11
Chapter 02: 公共空間の利活用 17
Chapter 03: まちづくり拠点の運営 55
Chapter 04: 研究会、研究活動 67
Chapter 05: 支援事業 73

おわりに 80

【資料】
活動履歴 82
委員・講演・視察対応・受賞 84
運営体制 85

はじめに

松山市都市再生協議会 会長
矢田部 龍一

2019 年 12 月 1 日に中国の武漢市で原因不明の肺炎が発症した。12 月 30 日には、中国の研究グループにより、その原因は新型コロナウィルスであることを明らかにされた。それ以降、新型コロナウィルスは瞬く間に世界に広がり、人々の生活様式を一変させた。この 2 年間を見ると、世界の空を縦横に飛び交っていた飛行機は消え、人々で溢れかえっていた町から人の姿が消えた。さすがに少しずつ元の姿を取り戻しつつあるが、コロナ以前に戻ることはないように思う。

コロナ禍の中で、テレワークとオンライン会議が多用されている。町の中心部にオフィスを構えて、そこに出勤して仕事をするという形が変わってきている。また、全国各地から、あるいは世界から集まって会議をするという形も変わってきている。テレワークが、オンライン会議が、空間の壁を取り払った。通勤や会議参加のための出張といった移動の時間が必要なくなった。その結果、仕事を目的とした人の移動が激減することになった。

世界を震撼させたコロナ禍は人々の生活を一変させることになる。人々の生活の変化は、まちづくりにも影響を与える。鉄道や自動車の登場が、それまでのまちの姿を変えた。今日、自動車は自動運転の時代を迎えている。これからの町の姿は新型コロナの感染拡大と自動運転の進展により、大きく様変わりすることになる。

今年の 2 月 24 日、突如、ロシアがウクライナに侵攻した。ウクライナ南部の 2 州は、ロシアの攻撃により廃墟となっている。また、ウクライナの首都であり、東ヨーロッパ最古の都市でもあるキーウは、ロシアのミサイル攻撃を受けている。町を作り上げるのは大変であるが、壊すのは一瞬である。松山の町も 1945 年 7 月 26 日の深夜から翌日未明にかけて、米軍の空爆により焼け野原にされている。それから 77 年かけて、松山の町を作り上げてきている。戦争という悲劇が 2 度と起こらないことを願うが、南海地震は間違いなく発生する。地震に強い松山を作り上げておく必要がある。

松山アーバンデザインセンターは、人材育成に、まちづくりに対して、全国的にもユニークな取り組みを展開してきている。その評価は高く、毎年のように各種の受賞をしてきている。今年度も、2 つの賞を受賞している。一つは、「アーバンデザイン・スマートシティスクール松山」に対する国土交通省の都市景観大賞優秀賞の受賞である。本スクールの「ディレクターを若手研究者や市派遣者が担い、高校生から大学院生の幅広い年代の若者が参加することによって、継続的な担い手確保と理解者支援者の拡大が実現」している継続性や、運営体制面の工夫に加え、「交通分析の可視化や最先端技術の導入など、他地域では一般的でない分野の研究者・技術者の参画により、まちづくりのイメージを変える戦略的な取り組み」がおこなわれていることが評価された。

もう一つは、日本都市計画学会の年間優秀論文賞の受賞である。愛媛県松山市郊外に位置する余土地区と久米地区を研究対象地とし、地形図や空中写真、その他、歴史資料をもとに、近代から現代に至るまでの景観変容を記述し、その発展過程を分析している。結果として、旧農村由来の農地単位には、エリアが市街地化されていく過程で農地や空地を含むいくつかの過渡的な土地利用パターンが存在することを明らかにしている。また、それらのパターンは段階的に、余土地区では同心円状に分布し、久米地区では南部の低地方向への分布傾向が確認された。すなわち地区の自然条件や公共施設及び土地基盤整備等のインフラ整備事業の履歴によって違いが見出されることを明らかにしている。

公共空間の利活用に関する研究として、「アーバンデザイン・スマートシティスクール松山」に取り組んできている。このプログラムは、地域資源を生かし、新たな公共空間の構想と計画を実践する市民参加型学習となっている。

また、まちづくり拠点としては、松山市花園町通りに、市民や観光客が滞在利用できる「もぶるラウンジ」を運営している。当施設では、フリースペースとしての利用に加え、まちづくり関連書籍を主としたライブラリーを設置し、各種の企画展示を行ないながら、市民活動による専用利用も受け付けている。また、情報発信として、花園町通りの利活用の様子をまとめた小冊子シリーズの発行、映像作品歴史まちあるき（余土編）の YouTube への公開、都市ビジョンの構築に向けたリサーチ「松山の都市形成史」のウェブ公開を行っている。

その他、本センターでは、支援事業や研究会活動を行っている。支援事業では、都市郊外のあるべき姿を検討することの一環として、日招八幡大神社池の改修計画の支援を行っている。研究会活動としては、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山に関わる講義を行っている。さらに、「都市展示記念フォーラム」、「松山の新たな駅まちづくりシンポジウム」を松山市との共催で開催している。

プロジェクトマップ 2021

Ch. 02 公共空間の利活用

〈アーバンデザイン・スマートシティスクール松山〉

地域資源を生かし、新たな公共空間の構想と計画を実践する市民参加型学習プログラムである。今年度はスクール形式を採用し、40 名の受講生が、6 グループにわかれて活動プランづくりとその実践に向けて取り組んだ。

フィールドワーク（現地調査）の様子

〈社会実験『urban design week.』〉

『urban design week.』は、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の活動プラン実施と松山スマートシティプロジェクトのフィールド実証実験が連動した社会実験である。2021 年度内の開催は見送ったが、実施予定だった内容などを紹介する展示『未開催展』を、もぶるラウンジにて開催した。

展示の様子

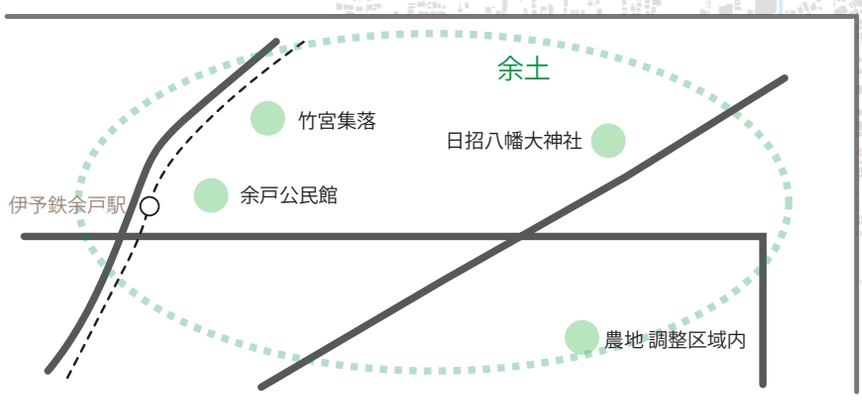
未開催展フライヤー

Ch. 05 支援事業

〈日招八幡大神社、池の改修計画支援〉

神社境内で古い池が見つかったことから、地域のこどもたちが遊べるような親水空間を目指した計画支援を行った。

検討会の様子



Ch. 01 スマートシティプロ

〈City Ride〉

次世代モビリティサービスを検証するため
呼べば停留所に配車される呼び出し方式の
ムを構築、市内中心部のコインパーキング
などに停留所を設け、短距離定路線型のモ
走行させるフィールド実証を企画した。
に延期を決定したことから、フィールド実
年度に繰り越しとなった。）

〈City Safe〉

自家用車や徒歩による避難行動を表現でき
シミュレーションモデルを用いて、メッシ
データ活用した避難行動シミュレーション

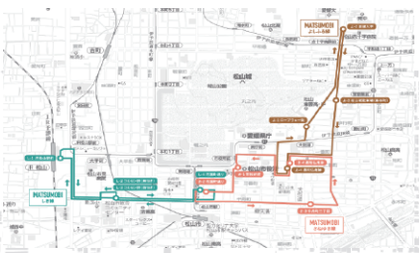
〈UDNM まちづくり塾 2021〉

「模型づくり」と「図鑑づくり」を行う小学生向けのま
撮るまち歩きや、保護者や一般の方も参加した「おひ

第 1 回まちあるき

プロジェクト

るため、利用者が
方式の予約システ
キングや公共施設
型のモビリティを
た。（開催の直前
ルド実証自体は次



企画していたフィールド実証のモビリティ路線図

現できるミクロ交通
メッシュ型滞在人口
ションを実施した。

3D 都市モデルを活用した避難行動 Sim の可視化

みかん山

アーバンデザインスマートシティスクール
道後グループ

アーバンデザインスマートシティスクール
行動分析グループ

デザインスマートシティスクール
グループ

アーバンデザインスマートシティスクール
まちなかグループ

アーバンデザインスマートシティスクール
モビリティグループ

Ch. 03 まちづくり拠点の運営

〈もぶるラウンジの運営〉

COVID-19 感染予防対策を講じながら、ラウンジ内での企画展示、ライブラリーの貸出再開、ラウンジ便りの発行再開等に取り組んだ。

展示の様子

ラウンジ利用の様子

ナのまちづくり塾を開講し、写真を
おひろめ会」を開催した。

作成した模型

〈花園まちのいろいろ冊子シリーズ〉

花園町通りの利活用の様子、UDCM の取り組み内容等をまとめた小冊子シリーズを、昨年度から引き続き 3 冊発行した。

花園まちのいろいろ冊子 05

〈松山歴史まちあるき〉

昨年度から取り組んできた歴史まちあるき映像作品（余土編）の編集作業を行い、YouTube での公開を開始した。

YouTube の画面

Topic

COVID-19 と UDCM をとりまく状況 2021.4-2022.3

COVID-19 の感染状況は収束しておらず、昨年度に引き続き、感染対策のためのマスク着用や手指消毒が欠かせない日々が続いている。次頁の図に 2021 年 4 月〜 2022 年 3 月までの COVID-19 感染状況の変化とそれに対する世界や日本国内の状況、愛媛県や松山市など地域が置かれた状況、UDCM や愛媛大学の対応について時系列的に示した。

個々のプロジェクトに対する影響とその対応状況については次章以降で詳しく振り返りを行っている。

出典

世界・国内状況：

NHK 特設サイト新型コロナウイルス、主要なニュース https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/chronology/?mode=digest&target=latest（2022.6.3 最終閲覧）

愛媛県：

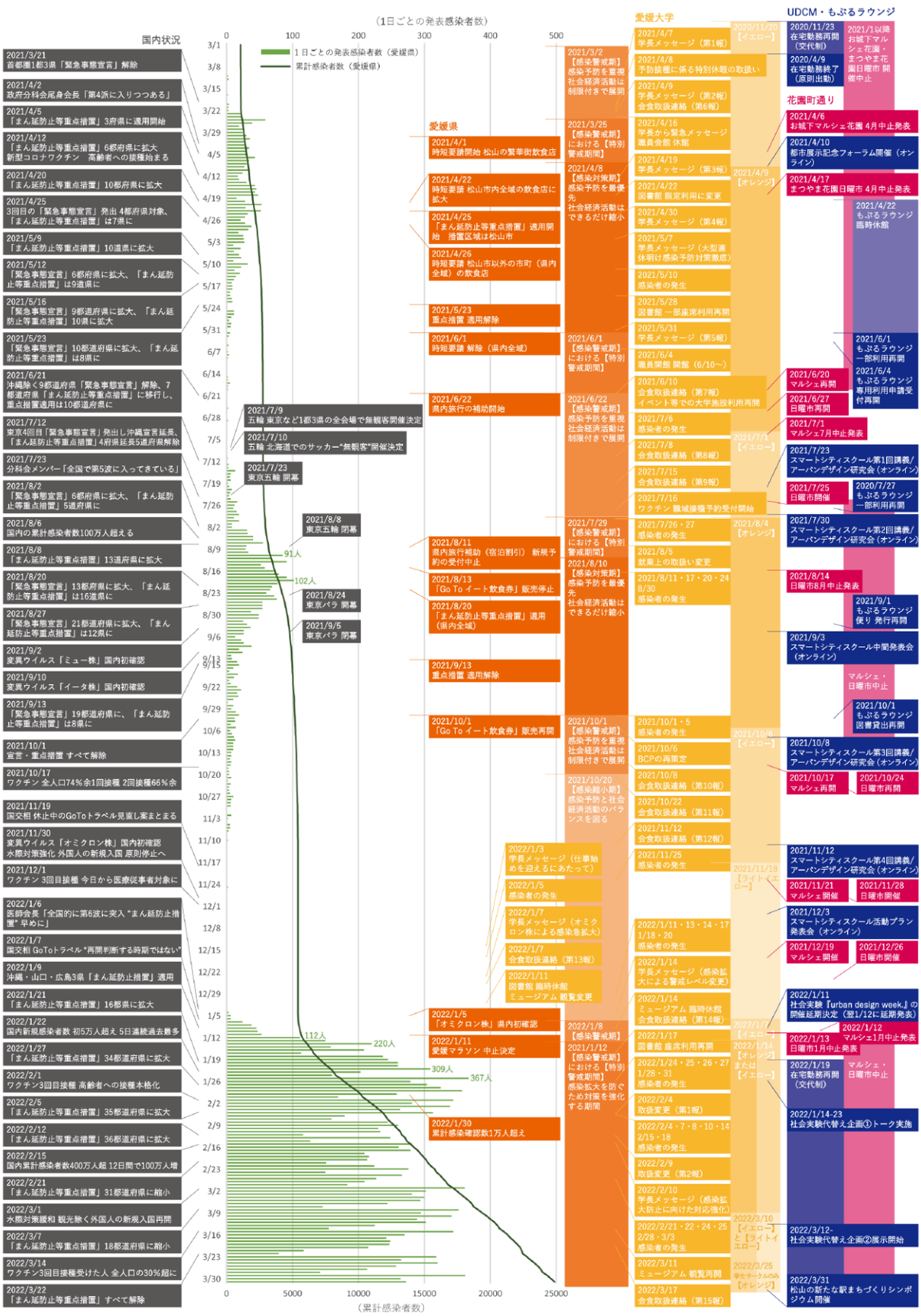
愛媛新聞 ONLINE、新型コロナウイルス関連情報、県内ニュース https://www.ehime-np.co.jp/online/news/coronavirus/（2022.6.3 最終閲覧）

愛媛大学：

愛媛大学全職員向け事務連絡メール、2021.4.1-2022.3.31

花園町通り：

1. お城下マルシェ Instagram、@ojokamarche
2. 花園みんなで創るプロジェクト Instagram、@hanazonodori
3. 松山アーバンデザインセンター facebook、@UDCMatsuyama


国内状況
2021/3/21 首都圏1都3県「緊急事態宣言」解除
2021/4/2 政府分科会尾身会長「第4派に入りつつある」
2021/4/5 「まん延防止等重点措置」3府県に適用開始
2021/4/12 「まん延防止等重点措置」6都府県に拡大 新型コロナワクチン 高齢者への接種始まる
2021/4/20 「まん延防止等重点措置」10都府県に拡大
2021/4/25 3回目の「緊急事態宣言」発出 4都府県対象、「まん延防止等重点措置」は7県に
2021/5/9 「まん延防止等重点措置」10道県に拡大
2021/5/12 「緊急事態宣言」6都府県に拡大、「まん延防止等重点措置」は9道県に
2021/5/16 「緊急事態宣言」9都道府県に拡大、「まん延防止等重点措置」10県に拡大
2021/5/23 「緊急事態宣言」10都道府県に拡大、「まん延防止等重点措置」は8県に
2021/6/21 沖縄除く9都道府県「緊急事態宣言」解除、7都道府県「まん延防止等重点措置」に移行し、重点措置適用は10都道府県に
2021/7/12 東京4回目「緊急事態宣言」発出し沖縄宣言延長、「まん延防止等重点措置」4府県延長5道府県解除
2021/7/23 分科会メンバー「全国で第5波に入ってきている」
2021/8/2 「緊急事態宣言」6都府県に拡大、「まん延防止等重点措置」5道府県に
2021/8/6 国内の累計感染者数100万人超える
2021/8/8 「まん延防止等重点措置」13道府県に拡大
2021/8/20 「緊急事態宣言」13都府県に拡大、「まん延防止等重点措置」は16道県に
2021/8/27 「緊急事態宣言」21都道府県に拡大、「まん延防止等重点措置」は12県に
2021/9/2 変異ウイルス「ミュー株」国内初確認
2021/9/10 変異ウイルス「イータ株」国内初確認
2021/9/13 「緊急事態宣言」19都道府県に、「まん延防止等重点措置」は8県に
2021/10/1 宣言・重点措置 すべて解除
2021/10/17 ワクチン 全人口74％余1回接種 2回接種66％余
2021/11/19 国交相 休止中のGoToトラベル見直し案まとまる
2021/11/30 変異ウイルス「オミクロン株」国内初確認 水際対策強化 外国人の新規入国 原則停止へ
2021/12/1 ワクチン 3回目接種 今日から医療従事者対象に
2022/1/6 医師会長「全国的に第6波に突入 "まん延防止措置"早めに」
2022/1/7 国交相 GoToトラベル"再開判断する時期ではない"
2022/1/9 沖縄・山口・広島3県「まん延防止措置」適用
2022/1/21 「まん延防止等重点措置」16都県に拡大
2022/1/22 国内新規感染者数 初5万人超え 5日連続過去最多
2022/1/27 「まん延防止等重点措置」34都道府県に拡大
2022/2/1 ワクチン3回目接種 高齢者への接種本格化
2022/2/5 「まん延防止等重点措置」35都道府県に拡大
2022/2/12 「まん延防止等重点措置」36都道府県に拡大
2022/2/15 国内累計感染者数400万人超 12日間で100万人増
2022/2/21 「まん延防止等重点措置」31都道府県に縮小
2022/3/1 水際対策緩和 観光除く外国人の新規入国再開
2022/3/7 「まん延防止等重点措置」18都道府県に縮小
2022/3/14 ワクチン3回目接種受けた人 全人口の30%超に
2022/3/22 「まん延防止等重点措置」すべて解除
（1日ごとの発表感染者数）
1日ごとの発表感染者数（愛媛県）
累計感染者数（愛媛県）
91人
102人
112人
220人
309人
367人
（累計感染者数）
愛媛県
2021/4/1 時短要請開始 松山の繁華街飲食店
2021/4/22 時短要請 松山市内全域の飲食店に拡大
2021/4/25 「まん延防止等重点措置」適用開始 措置区域は松山市
2021/4/26 時短要請 松山市以外の市町（県内全域）の飲食店
2021/5/23 重点措置 適用解除
2021/6/1 時短要請 解除（県内全域）
2021/6/22 県内旅行の補助開始
2021/7/9 五輪 東京など1都3県の全会場で無観客開催決定
2021/7/10 五輪 北海道でのサッカー"無観客"開催決定
2021/7/23 東京五輪 開幕
2021/8/8 東京五輪 閉幕
2021/8/11 県内旅行補助（宿泊割引） 新規予約の受付中止
2021/8/13 「Go To イート飲食券」販売停止
2021/8/20 「まん延防止等重点措置」適用（県内全域）
2021/8/24 東京パラ 開幕
2021/9/5 東京パラ 閉幕
2021/9/13 重点措置 適用解除
2021/10/1 「Go To イート飲食券」販売再開
2022/1/3 学長メッセージ（仕事始めを迎えるにあたって）
2022/1/5 感染者の発生
2022/1/7 学長メッセージ（オミクロン株による感染急拡大）
2022/1/7 会食取扱連絡（第13報）
2022/1/11 図書館 臨時休館 ミュージアム 観覧変更
2022/1/5 「オミクロン株」県内初確認
2022/1/11 愛媛マラソン 中止決定
2022/1/30 累計感染確認数1万人超え
2021/3/2 【感染警戒期】感染予防を重視 社会経済活動は制限付きで展開
2021/3/25 【感染警戒期】における【特別警戒期間】
2021/4/8 【感染対策期】感染予防を最優先 社会経済活動はできるだけ縮小
2021/6/1 【感染警戒期】における【特別警戒期間】
2021/6/22 【感染警戒期】感染予防を重視 社会経済活動は制限付きで展開
2021/7/29 【感染警戒期】における【特別警戒期間】
2021/8/10 【感染対策期】感染予防を最優先 社会経済活動はできるだけ縮小
2021/10/1 【感染警戒期】感染予防を重視 社会経済活動は制限付きで展開
2021/10/20 【感染縮小期】感染予防と社会経済活動のバランスを図る
2022/1/8 【感染警戒期】
2021/1/12 【感染警戒期】における【特別警戒期間】感染拡大を防ぐため対策を強化する期間
愛媛大学
2021/4/7 学長メッセージ（第1報）
2021/4/8 予防接種に係る特別休暇の取扱い
2021/4/9 学長メッセージ（第2報） 会食取扱連絡（第6報）
2021/4/16 学長から緊急メッセージ 職員会館 休館
2021/4/19 学長メッセージ（第3報）
2021/4/22 図書館 限定利用に変更
2021/4/30 学長メッセージ（第4報）
2021/5/7 学長メッセージ（大型連休明け感染予防対策徹底）
2021/5/10 感染者の発生
2021/5/28 図書館 一部座席利用再開
2021/5/31 学長メッセージ（第5報）
2021/6/4 職員会館 開館（6/10～）
2021/6/10 会食取扱連絡（第7報） イベント等での大学施設利用再開
2021/7/6 感染者の発生
2021/7/8 会食取扱連絡（第8報）
2021/7/15 会食取扱連絡（第9報）
2021/7/16 ワクチン 職域接種予約受付開始
2021/7/26・27 感染者の発生
2021/8/5 就業上の取扱い変更
2021/8/11・17・20・24 8/30 感染者の発生
2021/10/1・5 感染者の発生
2021/10/6 BCPの再策定
2021/10/8 会食取扱連絡（第10報）
2021/10/22 会食取扱連絡（第11報）
2021/11/12 会食取扱連絡（第12報）
2021/11/25 感染者の発生
2022/1/11・13・14・17 1/18・20 感染者の発生
2022/1/14 学長メッセージ（感染拡大による警戒レベル変更）
2022/1/14 ミュージアム 臨時休館 会食取扱連絡（第14報）
2022/1/17 図書館 座席利用再開
2022/1/24・25・26・27 1/28・31 感染者の発生
2022/2/4 取扱変更（第1報）
2022/2/4・7・8・10・14 2/15・18 感染者の発生
2022/2/9 取扱変更（第2報）
2022/2/10 学長メッセージ（感染拡大防止に向けた対応強化）
2022/2/21・22・24・25 2/28・3/3 感染者の発生
2022/3/11 ミュージアム 観覧再開
2022/3/17 会食取扱連絡（第15報）
2020/11/20【イエロー】
2021/4/9【オレンジ】
2021/7/1【イエロー】
2021/8/4【オレンジ】
2021/10/6【イエロー】
2021/11/18【ライト・イエロー】
2022/1/7【イエロー】
2022/1/14【オレンジ】または【イエロー】
2022/3/10【イエロー】と【ライトイエロー】
2022/3/25 学生サークルのみ【オレンジ】
UDCM・もぶるラウンジ
2020/11/23 在宅勤務再開（交代制）
2020/4/9 在宅勤務終了（原則出勤）
2021/1以降 お城下マルシェ花園・まつやま花園日曜市 開催中止
花園町通り
2021/4/6 お城下マルシェ花園 4月中止発表
2021/4/10 都市展示記念フォーラム開催（オンライン）
2021/4/17 まつやま花園日曜市 4月中止発表
2021/4/22 もぶるラウンジ臨時休館
2021/6/1 もぶるラウンジ一部利用再開
2021/6/4 もぶるラウンジ専用利用申請受付再開
2021/6/20 マルシェ再開
2021/6/27 日曜市再開
2021/7/1 マルシェ7月中止発表
2021/7/23 スマートシティスクール第1回講義/アーバンデザイン研究会（オンライン）
2021/7/25 日曜市開催
2020/7/27 もぶるラウンジ一部利用再開
2021/7/30 スマートシティスクール第2回講義/アーバンデザイン研究会（オンライン）
2021/8/14 日曜市8月中止発表
2021/9/1 もぶるラウンジ便り 発行再開
2021/9/3 スマートシティスクール中間発表会（オンライン）
マルシェ・日曜市中止
2021/10/1 もぶるラウンジ図書貸出再開
2021/10/8 スマートシティスクール第3回講義/アーバンデザイン研究会（オンライン）
2021/10/17 マルシェ再開
2021/10/24 日曜市再開
2021/11/12 スマートシティスクール第4回講義/アーバンデザイン研究会（オンライン）
2021/11/21 マルシェ開催
2021/11/28 日曜市開催
2021/12/3 スマートシティスクール活動プラン発表会（オンライン）
2021/12/19 マルシェ開催
2021/12/26 日曜市開催
2022/1/11 社会実験『urban design week』の開催延期決定（翌1/12に延期発表）
2022/1/12 マルシェ1月中止発表
2022/1/13 日曜市1月中止発表
2022/1/19 在宅勤務再開（交代制）
マルシェ・日曜市中止
2022/1/14-23 社会実験代替え企画①トーク実施
2022/3/12- 社会実験代替え企画②展示開始
2022/3/31 松山の新たな駅まちづくりシンポジウム開催

Chapter
01

スマートシティ

既成市街地の更新や次世代都市サービスの導入をモデルケースとして、データ駆動型都市プランニングに基づいたまちづくりの実現を国土交通省のスマートシティモデルプロジェクトと連携して実施している。今年度は、次世代モビリティサービス（City Ride）の導入検討のため、フィールド実証の企画に取り組んだほか、防災分野でのデータ駆動型都市プランニングの知見を得るため、昨年度、受託し繰り越している次世代防災サービス（City Safe）に関する検証も実施した。

- City Ride
- City Safe
- 可視化ツールの開発

（1）City Ride

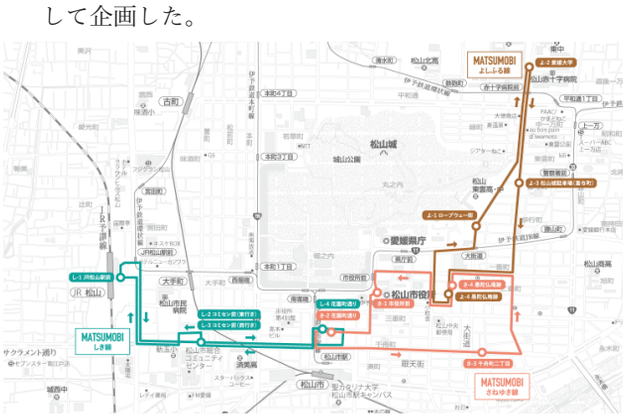
公共交通事業で採算性や運転手不足が課題になる中、自動運転技術等を活用した次世代モビリティサービスの導入が考えられる。人件費の削減や運転手の確保に加えて、自動運転になることで、定時定路線型やデマンド型、貨客混載、ツアー、イベント送迎といった複数の形態であっても、利用状況や需要に応じてきめ細やかな運用することが期待できる。

この次世代モビリティサービスの導入において、データ駆動型都市プランニングを活用することにより、既存公共交通との補完や連携による一体的なモビリティサービスの提供や、市内で繰り広げられる様々なアクティビティとの連動で、全体最適を図ることを目指すものである。

1）フィールド実証の企画

次世代モビリティサービスを検証するため、有人運転のジャンボタクシーを走らせ、市内中心部でモビリティサービスを展開しながら、City Probe や City Sim と合わせて、行動変容の把握や運行計画の最適化などを目指した。

このフィールド実証にあたっては、中心部の各エリアで各々に展開されるイベント等（アクティビティ）をモビリティでつなぐことなど、アクティビティと連動したモビリティサービスについての検証を行うため、『アーバンデザインスマートシティスクール松山』のグループワークと連携し、『urban design week.』として企画した。



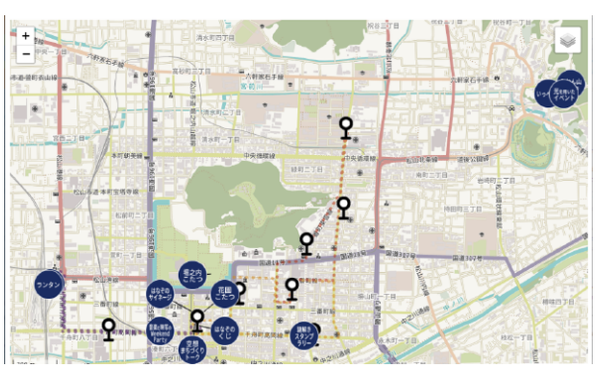
企画していたフィールド実証のモビリティ路線図

運行は、市内中心部のコインパーキングや公共施設などに停留所を設け、3 つの路線を設定する短距離定路線型とした。また、時刻表は設けず、利用者が呼べば停留所に配車される呼び出し方式とした。

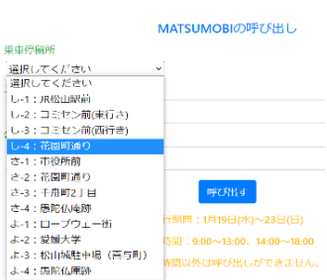
また、urban design week. のホームページを立ち上げ、そのページで、利用者はモビリティの位置情報を見ながら WEB アプリでモビリティを呼び出すシステムを構築した。

さらに、モビリティの利用状況だけでなく、その前後の利用者の移動経路や移動手段を把握するため、プローブパーソン調査を行うこととし、200 名程度のモニターを募集した。

上記のとおり準備を進めていたが、今年度、2022 年 1 月 14 ～ 23 日で開催予定であった urban design week. は、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、開催の直前に延期を決定したことから、このフィールド実証も次年度に繰り越すことにした。



urban design week. ホームページの開設



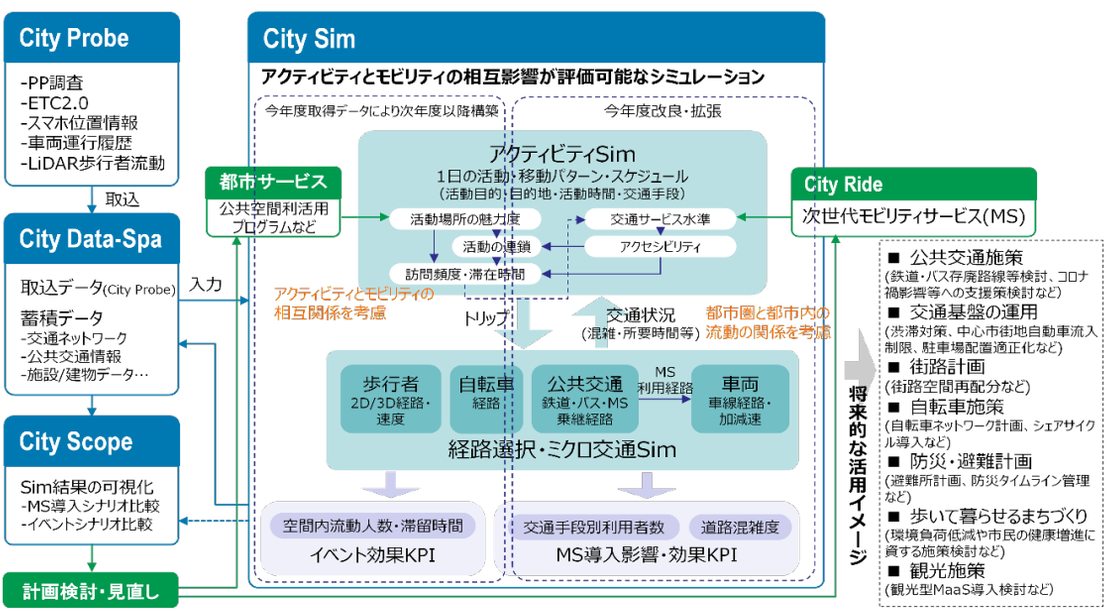
モビリティを呼び出す WEB アプリ

2）シミュレーションモデルの継続開発

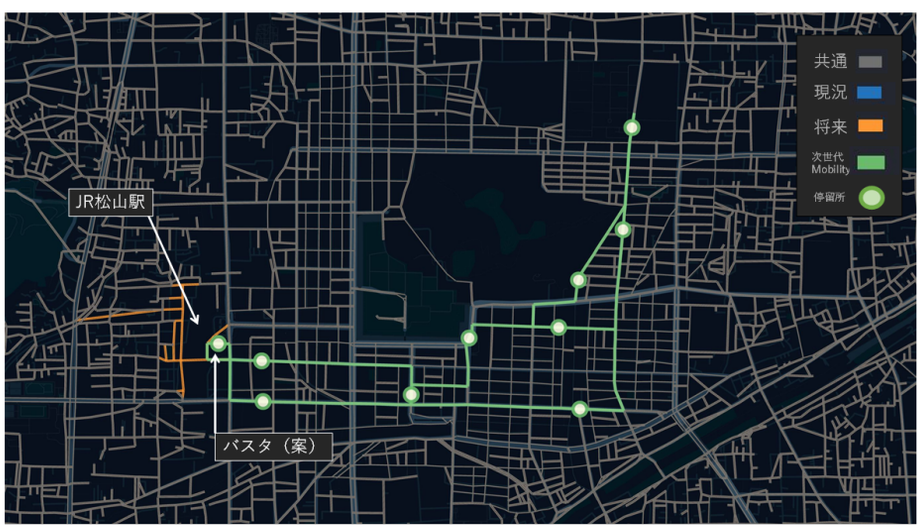
データ駆動型都市プランニングにより、アクティビティやモビリティの利用状況に応じた最適なモビリティサービスの運行計画の提案を目指している。

今年度は、ミクロ交通シミュレーションモデル『Hongo』の継続開発により、空間改変前後の比較検証やフィールド実証結果を用いたモビリティサービスの検討が可能になった。

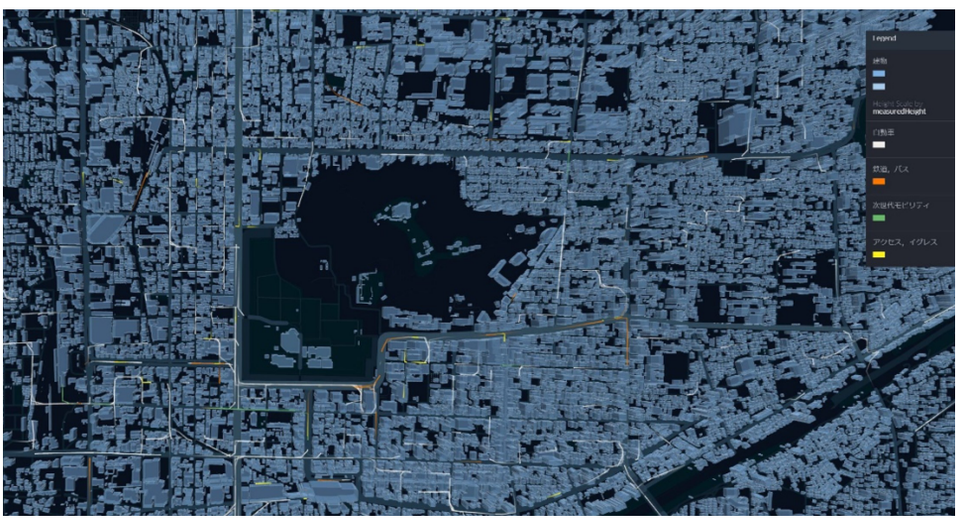
具体的なシナリオとして、JR 松山駅付近連続立体交差事業と土地区画整理事業，バスタ整備の可能性も考慮したもの，フィールド実証の運行予定路線を次世代モビリティサービスとして導入したものを作成した。さらに，計算結果の状況を可視化し、交通手段別の人や車両の移動状況、時間帯別リンク速度による道路混雑の状況を確認できた。さらに、時間帯別リンク速度の可視化により、ミクロな交通状況の経過について把握可能であることも確認できた。



データ駆動型都市プランニングの活用イメージ



次世代モビリティの運行路線と乗降場所



交通手段別の人や車両の移動状況

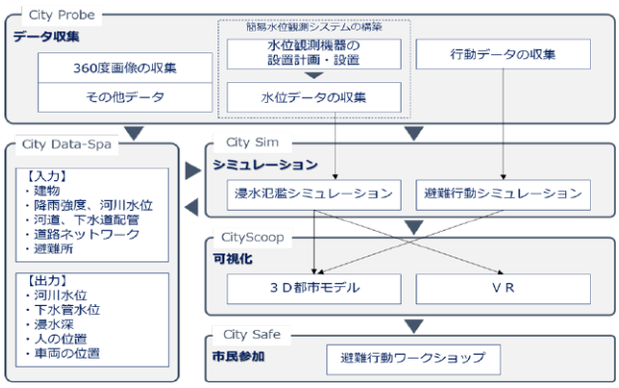
時間帯別リンク速度による道路混雑の状況

（2）City Safe

三津浜地区及び宮前地区の内水・高潮の複合的な災害時の避難行動を対象とした取組みであり、昨年度の追加補正での募集に対し応募し、今年度したものである。

実施にあたり、簡易水位計を設置し、地区内のより詳細な水位の把握を行うとともに、その水位データ以外にも、雨量や河川・下水道管路データなどを用いて、高潮と内水を考慮した動的な浸水氾濫シミュレーションを愛媛大学水工学研究室と共同で行った。

また、自家用車や徒歩による避難行動を表現できるミクロ交通シミュレーションモデルを構築し、メッシュ型滞在人口データ活用した避難行動シミュレーションを実施した。



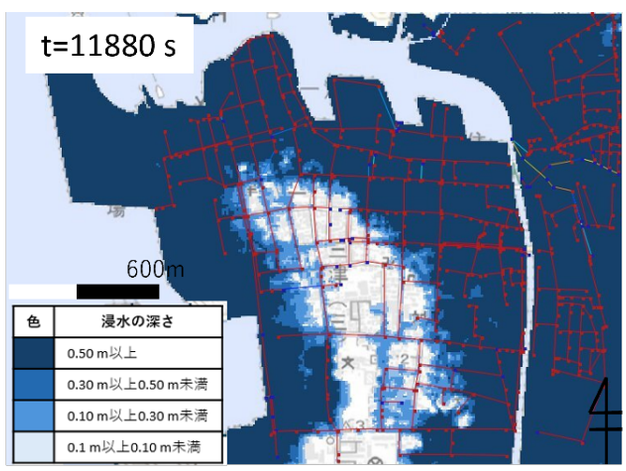
実証実験実施フロー

三津浜 / 宮前地区でのワークショップ風景

このシミュレーション結果を市民にわかりやすく可視化するため、3D 都市モデルを用いて、鳥瞰とアイレベルで、3 次元で可視化した。また、アイレベルは、3D 都市モデルだけでなく、VR を用いてリアルな浸水状況を可視化した。

このシミュレーション結果を地元住民が集まるワークショップで提示し、一人一人のマイ・タイムラインがどう変化するかを検証することとした。

このワークショップは、全 3 回を予定していたが、新型コロナウィルスの感染者数が増加したことから、感染拡大防止のため、3 回目は延期して、次年度に繰り越すこととした。



三津浜 / 宮前地区での浸水氾濫解析結果（高潮）

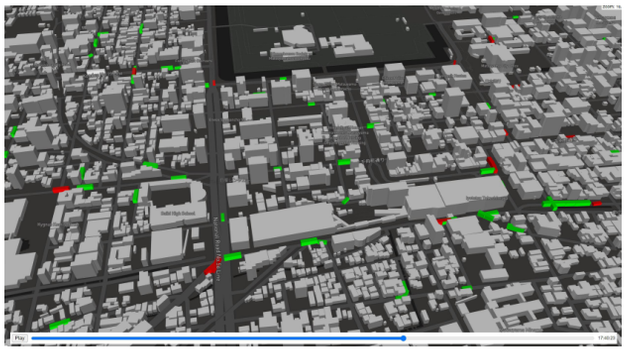
3D 都市モデルを活用した避難行動 Sim の可視化

（3）可視化ツールの開発

人や車両の移動について、現況データやシミュレーション結果を市民に分かりやすく可視化するため、交通シミュレーション結果を可視化するツールの開発を行った。

主に、オンラインでの利用を想定し、WebGL で開発を行い、背景となるマップに 3D 都市モデルの建物データ等が表示できるよう、3 次元表現が可能なものとした。

移動体は、歩行者、自転車、自動車（乗用車･バス）、路面電車が分別でき、移動速度等により着色を変えて表現できるものとした。



交通シミュレーション結果可視化ツールによる表示

Chapter
02
公共空間の利活用

UDCM では 2016 年度から 2019 年度まで、松山市中心市街地賑わい再生社会実験業務を松山市から受託し、まちづくり拠点運営とプログラム企画の実施等を通じた賑わいづくりに取り組んできた。松山市による当該社会実験終了に伴い、2020 年度から UDCM による自主運営に切換え、まちづくり拠点である「もぶるラウンジの運営（後章）」と「公共空間の利活用」を行っている。

COVID-19 による混乱が続く中、これまで取り組んできたみんなのひろば（2014-2018）、花園町通り（2018-）、またアーバンデザインスクール（2014-）でのプログラム企画等の知見を活かし、今年度は新たにスクール形式での公共空間利活用プログラムの開発等に取り組んだ。次頁以降にて、具体的な活動内容について振り返る。

・アーバンデザイン・スマートシティスクール松山
・社会実験『urban design week.』
・プログラム支援

（1）アーバンデザイン・スマートシティスクール松山

1）経緯

アーバンデザイン･スマートシティスクール松山（以降「スマートシティスクール」という）は、地域資源を生かし、新たな公共空間の構想と計画を実践する市民参加型学習プログラムである。COVID-19 の影響が長期化する中、公共空間利活用の継続や市民参加の機会づくりを行う 1 つの方法として、今年度はスクール形式を採用した。

スマートシティスクールの趣旨として、初回講義冒頭での羽藤 UDCM センター長の挨拶を記載する。

これまで UDCM では複数の外部空間・プロジェクトの敷地で具体的な設計、デザインマネジメントをやってきているわけですが、ここに市民の方々のいろんな活動を、さらにプログラムデザインということで実走し、それぞれの敷地をバラバラなままで済ませるのではなく、自動走行をはじめとする新たなモビリティで、互いのプログラムをつなげていくことはできないだろうかと考えています。

いま我々は COVID-19 下で、移動の総量が減ってきています。公共交通の事業者の方も、経営が非常に厳しくなってきていて、これから一体、地域の交通がどうなるんだろうということが言われています。そういった中で中長期的には、この自動走行といったものですとか、JR 松山駅あるいは松山市駅といったところの空間改変が、交通ネットワークのつなぎ方を変えていく起爆剤、きっかけになるのではないかというときに、新たな、生活者のまちの楽しみ方・暮らし方、というのが、この外部空間をいかに活用し、かつ、それが市民の方々の生活をどう具体的に変えていくのかということを数量的にみえるようにしてあげて、みんなでそのまちの未来像を共有し、新たな松山市のまちづくりの方向性を示していけないかと、それをみんなで学んでいこうじゃないかというのが、このアーバンデザイン・スマートシティスクールの趣旨になります。

それぞれのチームには、メンターと言われる方々がついています。メンターからは、数理的な分析のアドバイスや、またメンターも一体になって、プログラムデザイン、空間デザインのアイディアを出し、社会実験、実証実験までぜひいってほしいと思います。（2021.7.23 第 1 回講義 冒頭挨拶）

2）体制

本年度は、40 名の受講生が、6 グループにわかれて活動プランづくりとその実践に向けて取り組んだ。受講生の内訳は以下の表のとおりである。

表　受講生の内訳

肩書	所属	人数	
学生	愛媛大学	9	24
	松山大学（短大含む）	8	
	聖カタリナ大学	1	
	東京大学	2	
	芝浦工業大学	1	
	河原デザイン・アート専門学校	3	
社会人	松山市役所	7	16
	芙蓉コンサルタント	2	
	復建調査設計	1	
	JR 四国	1	
	伊予鉄道	1	
	伊予銀行	2	
	その他	2	

また、各グループには UDCM プロジェクトディレクターをメンターとして配置し、グループの受講生たちに助言を行いながら、活動に伴走する役割を担った。各グループのメンターと、各グループの受講生数は、次頁の表のとおりである。

表　各グループの構成

	メンター	学生 受講者数	社会人 受講者数	グループ合計 受講者数
道後	力村　真由（多摩美術大学/UDCM）	5	2	7
花園	板東　ゆかり（UDCM/ 愛媛大学）	4	2	6
松山駅	芝原　貴史（東京大学/UDCM）	3	4	7
まちなか	片岡　由香（愛媛大学/UDCM）	5	2	7
モビリティ	三谷　卓摩（UDCM/ 愛媛大学）	4	3	7
行動分析	石飛　直彦（復建調査設計/UDCM）	3	3	6

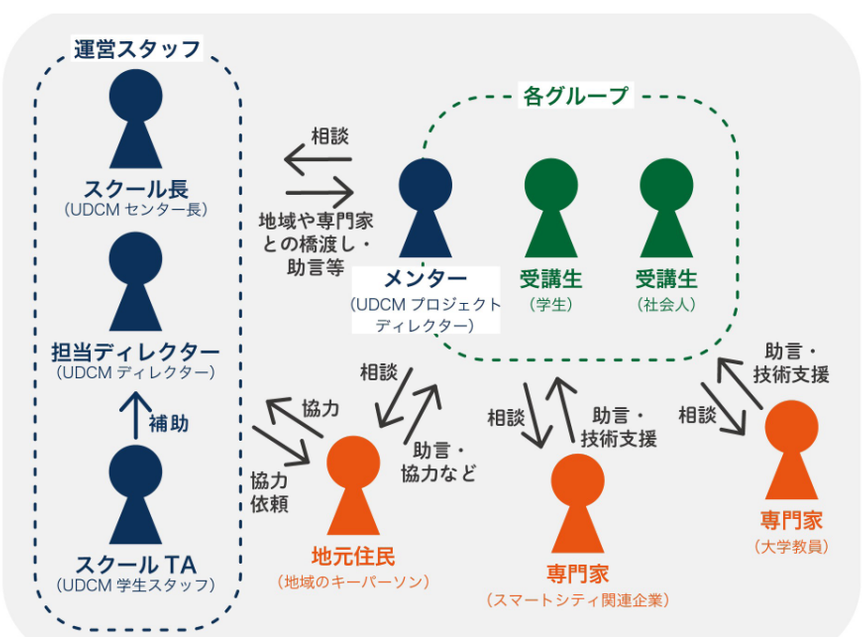


図　運営体制

受講生のグループ分けについては、受講申し込み時に、興味・関心のあるグループを確認し、受講生本人の希望に沿ったグループに振り分けた。メンターについては、対象となるテーマやエリアに関わっているUDCMメンバーを各グループに配置した。また運営スタッフは、各グループに対して、適宜、協力者（地域のキーパーソンや大学教員などの専門家）との橋渡しやグループワークの進め方などの助言や補助を行った。

3）スケジュール

2021年7月の開講以降、受講生は月1回のオンライン講義（金曜18-20時）を受けながら、グループワークを通じて、活動プランづくりとプラン実施に向けた準備等に取り組んだ。下表に講義や発表会など、全体スケジュールを示す。

表　全体スケジュール

月日	内容
2021.7.23	第1回 講義　事例紹介① 「外部空間の使い方」講師：伊藤 香織（東京理科大学 教授） 「データ分析の面白さ」講師：大山 雄己（芝浦工業大学 准教授）
2021.7.30	第2回 講義　エリア紹介① 「花園町通りの特徴と課題」講師：重松 建宏（花園町東通り商店街組合） 「道後温泉地域の特徴と課題」講師：山澤 満（道後温泉誇れるまちづくり推進協議会）
2021.9.3	中間発表会（活動コンセプト発表会） コメンテーター：野志 克仁（松山市 市長）、松本 啓治（坂の上の雲ミュージアム 総館長）、重松 建宏（花園町東通り商店街組合）、山澤 満（道後温泉誇れるまちづくり推進協議会）、園田 修也（ひめぎん情報センター）、古谷 純（日立製作所）、羽藤 英二（UDCMセンター長）、松村 暢彦（UDCM副センター長）、四戸 秀和（UDCMディレクター※当時）
2021.10.8	第3回 講義　エリア紹介② 「松山のまちなかの成り立ち」講師：松本 啓治（坂の上の雲ミュージアム 総館長） 「聖地　道後の歴史」講師：胡 光（愛媛大学法文学部 教授） 「上人坂の空間再生と効果の見える化」トークゲスト：小林 里瑳（東京大学大学院 博士課程）、奥村 敏仁（大和屋本店旅館 代表取締役社長）、力村 真由（多摩美術大学 副手）
2021.11.12	第4回 講義　事例紹介② 「デュアルモード・ソサイエティにおける交通防災まちづくり ～豊洲スマートシティの取組み～」講師：大村 珠太郎（清水建設） 「IHIの豊洲スマートシティの取り組みについて ～気象・交通の計測技術を中心に～」講師：寺田 基、河村 清美、大野 正夫（IHI） 「デジタルツインで創る未来都市 ～強靭でスマートなまちづくり～」講師：佐々木 康弘（NEC） 「利便性だけじゃダメ！人類全てに優しくあるべきスマートシティ」講師：辻 早紀（一般社団法人 One Smile Foundation）
2021.12.3	活動プラン発表会 コメンテーター：伊藤 香織（東京理科大学 教授）、大山 雄己（芝浦工業大学 准教授）、羽藤 英二（UDCMセンター長）、松村 暢彦（UDCM副センター長）、羽鳥 剛史（UDCM副センター長）
2022.1.14-23	社会実験（活動プラン実施）※COVID-19感染拡大により開催見送り（延期） 社会実験の代替え企画（オンライントーク）実施
2022.3.10-20	スマートシティスクール活動プラン実施の代替え企画（動画撮影）実施

なお、スマートシティスクールのオンライン講義は、アーバンデザイン研究会を兼ねて開催したため、受講生以外も聴講できるよう、UDCM の YouTube チャンネルにてライブ配信を行った。ライブ配信は申込不要、参加無料で市民などがリアルタイムで視聴することができる仕様とした。各講義の内容については、アーバンデザイン研究会の頁にて振り返る。

対面でのグループワークの様子

4）グループワーク等の実施

グループワークについては、グループメンバーの都合や COVID-19 感染状況に合わせ、対面とオンラインを織り交ぜて取り組んだ。実施頻度はグループによってまちまちであったが、中間発表会以降は、多くのグループが週 1 回程度、定期的にオンラインで集まり、議論や準備を進めていた。

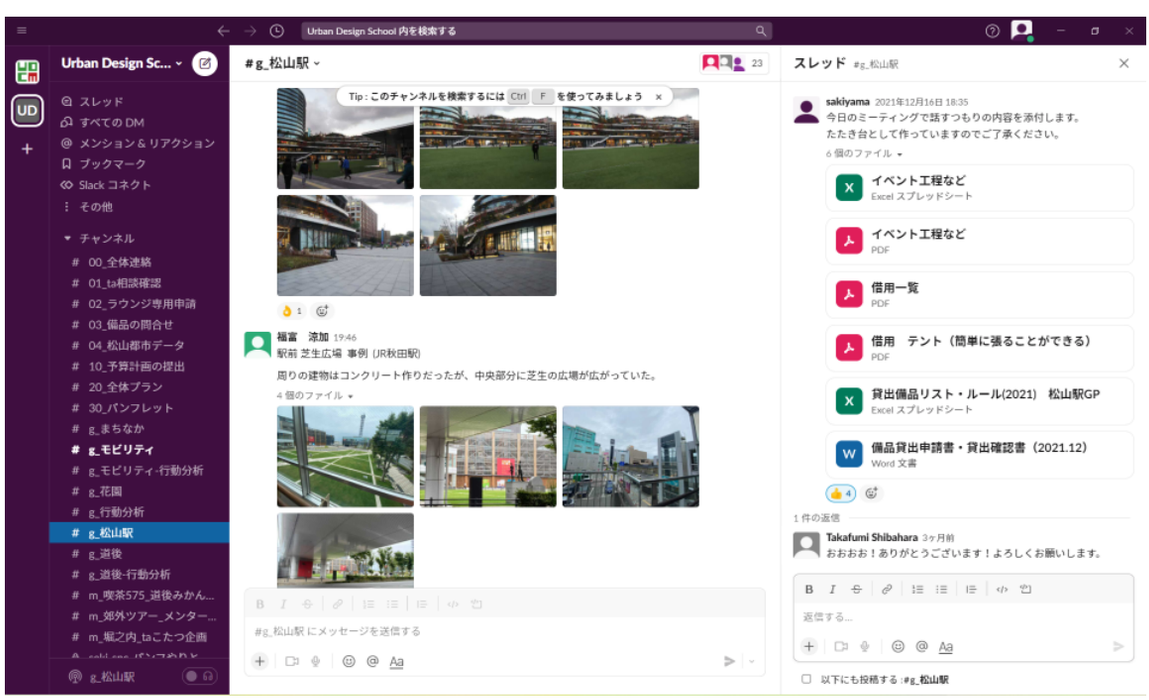
グループ内外のコミュニケーションについては、スマートシティスクール用にワークスペースを開設した Slack を積極的に利用するよう呼びかけたため、日常的な交流や資料の共有などが Slack 上で行われた。運営スタッフも Slack 上での各グループ内のやりとりを確認することができたため、ある程度、各グループの状況や進捗を把握することができた。

フィールドワーク（現地調査）の様子（1）

オンラインでのグループワークの様子

フィールドワーク（現地調査）の様子（2）

Slack 上での資料や進捗共有の様子（1）



Slack 上での資料や進捗共有の様子（2）

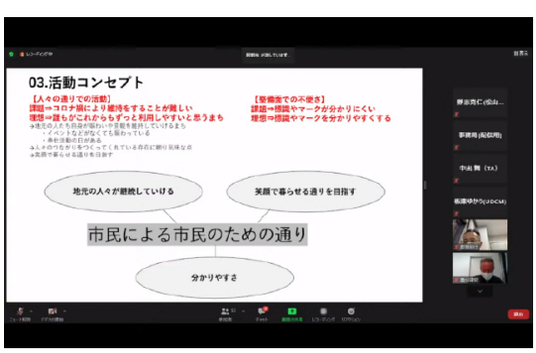
5）各グループの活動プラン

全体スケジュールのとおり、9 月にグループの「活動コンセプト」、12 月に「活動プラン」を発表し、コメンテーターの方々にご講評いただいた。各グループの「活動コンセプト」と「活動プラン」について、発表会での発表内容とコメンテーターのコメントを中心に、スクール TA を務める学生スタッフ(中出)のレポートにて振り返る。

花園グループ

活動コンセプト（9/3 発表）：

花園町通りの成り立ちとフィールドワークによって得られた課題を整理した上で、「市民による市民のための通り」とすることを活動コンセプトとして発表しました。コメンテーターの松村暢彦氏（愛媛大学 教授/UDCM 副センター長）からは、異なる要素を持つものを組み合わせ、魅力的なものを生み出すことを花園町通りで実現できると良いといった意見をいただきました。



花園グループの活動コンセプト発表の様子

活動プラン（12/3 発表）：

「笑顔つながる だんらんプロジェクト」と題し、通りでの展示による屋外空間の使い方の提案、はなぞのくじによる新たなアクティビティの誘発、こたつを通した屋外空間の過ごし方の提供を活動プランとして発表しました。コメンテーターの伊藤香織氏（東京理科大学 教授/UDCM プロジェクトディレクター)からは、展示のバナーの人目に付く具体的なデザイン案やこたつ企画に訪れた人々の過ごし方の記録を行うと良いといった意見をいただきました。

花園グループの活動プラン発表の様子

松山駅グループ

活動コンセプト（9/3 発表）：

松山駅の現状を空間的特徴や乗降客数などから把握した上で、人がとどまる要素が少ないことを課題として取り上げ、地下道や駅前広場を活用したイベントを発表しました。コメンテーターの四戸秀和（UDCM ディレクター）からは、地下道の空間条件を活用した提案や駅周辺部を活かした時間の過ごし方のイメージを広げると良いといった意見をいただきました。

松山駅グループの活動コンセプト発表の様子

活動プラン（12/3 発表）：

フィールドワークで得られた松山駅の現状と他の駅前広場の事例を比較した上で、工事中のスペースにあるコンテナの装飾や人工芝を引いた休憩スペース設置等の試験的利用と手作りのランタンを用いた空間づくり企画の活動プランを発表しました。コメンテーターの松村暢彦氏からは、手作りランタンを用いた空間づくりの際、待つことに繋げるために普段とは違う空間に誘うための仕立てをすると良いといった意見をいただきました。

松山駅グループの活動プラン発表の様子

まちなかグループ

活動コンセプト（9/3 発表）：

まちなかを歩くきっかけが少なく、滞在時間が短いことを課題として挙げた上で、フォトイベントによるきっかけづくりや荷物運搬サービスによる快適なまちなか移動に関する提案を発表しました。コメンテーターの松村暢彦氏からはイベント等の実施に向けて、まちなかを歩く人を観察調査し、ニーズの整理をすると良いといった意見をいただきました。

まちなかグループの活動コンセプト発表の様子

活動プラン（12/3 発表）：

まちなかを歩くきっかけが少ない現状を踏まえて回遊性の向上を図ることを目的とした上で、謎解きの要素やタイムスリップによる歴史的感覚を組み合わせたスタンプラリー形式の活動プランを発表しました。コメンテーターの羽鳥剛史先生（愛媛大学 准教授 / UDCM 副センター長）からは、昔の人の行動を調査・模倣するなど、タイムスリップ演出の仕掛けを凝ると良いといった意見をいただきました。

まちなかグループの活動プラン発表の様子

道後グループ

活動コンセプト（9/3 発表）：

上人坂に目的地が少ないことや道後地区全体の回遊性が乏しいこと、地区内に点在する魅力的な歴史的観光資源が認知されていないことを課題として挙げた上

で、上人坂の駐車場や裏道を活用した新たなアクティビティ案とその効果検証方法について発表しました。コメンテーターの松本 啓治氏（坂の上の雲ミュージアム 総館長）からは、道後の夜の灯りや風情を活かした提案ができれば良いといった意見をいただきました。

道後グループの活動コンセプト発表の様子

活動プラン（12/3 発表）：

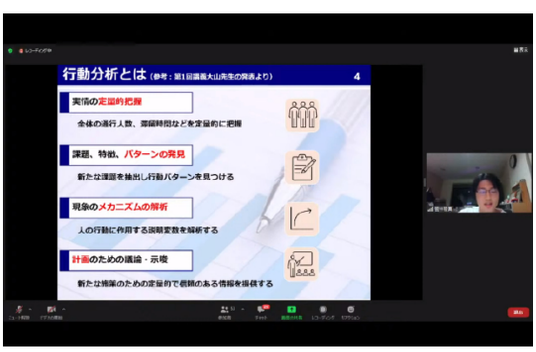
現在の道後の課題を整理した上で、上人坂に新たなにぎわいを生むことをコンセプトに掲げ、歩きたくなる仕掛けと光源を入れた「いっぺん袋」の配布や捨莉紙の移動販売、休憩所の設置によって上人坂をはじめとする道後の夜に光と人のにぎわいで明るさを灯すという活動プランとその効果検証について発表しました。コメンテーターの伊藤 香織氏からは、「いっぺん袋」の光を用いた仕掛けを工夫することによって特別な道後の夜の風景を演出できるといいといった意見をいただきました。

道後グループの活動プラン発表の様子

行動分析グループ

活動コンセプト（9/3 発表）：

道後地区の既存のプローブパーソンデータやアンケートデータを用いて現状分析を行い、道後地区におけるソフト施策の定量分析を行うことについて発表しました。コメンテーターの古谷 純氏（日立製作所）からは、日本で行われているスマートシティの取り組みの中でも先進的な取り組みなので期待したいといった意見をいただきました。



行動分析グループの活動コンセプト発表の様子

活動プラン（12/3 発表）：

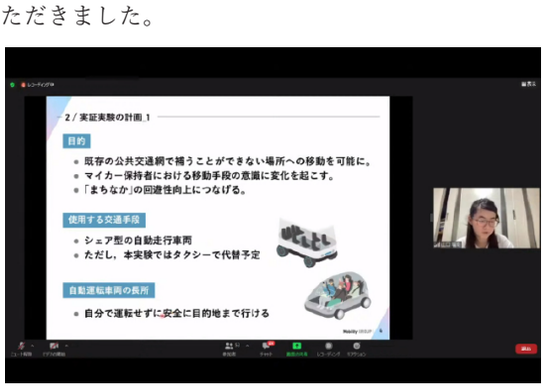
道後来訪者の回遊行動、行動に影響を与える要因、地区の現状と課題を明らかにし、その課題にアプローチするために分析を行うことをコンセプトとし、過去の道後来訪者の GPS とアンケートデータから行動を分析した結果を発表しました。また、道後来訪者のまちなかにおける行動分析を行うことや道後グループが主催するイベントと連携した人の滞留や回遊行動について解析することを今後の活動プランとして発表しました。コメンテーターの大山 雄己氏（芝浦工業大学 准教授 /UDCM プロジェクトディレクター）からは、他グループとの連携に向けて、観光マップなどの来訪者への情報提供と行動との関係性について考察するといいといった意見をいただきました。

行動分析グループの活動プラン発表の様子

モビリティグループ

活動コンセプト（9/3 発表）：

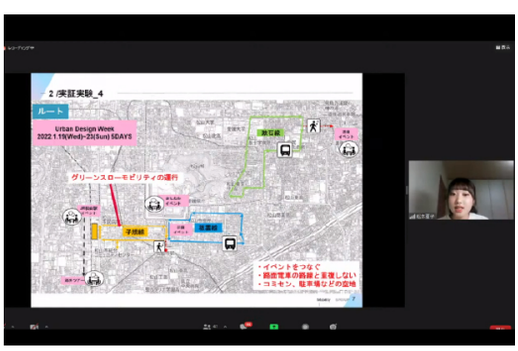
自動走行車両の導入に向けて、短期的視点から自動走行の有効性を探るためのシニア層を対象とした自動走行車両の実証実験計画と、中・長期的視点から松山のまちなかの変化をみるシミュレーション計画について発表しました。コメンテーターの古谷 純氏からは自動走行車両が走る街の実現に向けて、移動環境の整備だけでなく移動したい楽しみを街に埋め込んでいくことも合わせて考えていく必要があるといった意見をいただきました。



モビリティグループの活動コンセプト発表の様子

活動プラン（12/3 発表）：

まちなかの回遊性向上に向け、自動走行車両を活用した実証実験とシミュレーションによる人の移動や滞留、活動の変化の検証を行うことをコンセプトとして設定した上で、他グループが開催するイベントをめぐる車両運行と GPS アプリやアンケートによる効果検証することで自動走行車両を導入した将来の松山をシミュレーションによって再現することを活動プランとして発表しました。コメンテーターの大山 雄己氏からは、自動走行車両の「使いやすい・目を引く」などの既存の交通サービスと異なる特徴から、車両導入によって現状の回遊性がどう変化するかについて考えるといいといった意見をいただきました。



モビリティグループの活動プラン発表の様子

6）プランの実施

各グループの活動プラン実施の場として、松山スマートシティプロジェクトのフィールド実証実験と連動した社会実験『urban design week.』を、2022 年 1 月 14 日から 23 日までの 10 日間開催する予定であった。しかし、2022 年 1 月 7 日以降の愛媛県内および松山市内の COVID-19 新規感染者の急激な増加を鑑み、1 月 11 日に開催見送り（延期）の判断となった。予定していた社会実験の内容については後述する。

社会実験の開催見送り決定後、2022 年 3 月の開催に向け、再調整等を行ったが、2022 年 2 月前半時点で、COVID-19 感染拡大が改善しているとは言い難い状況であった。そのため、「社会実験の 2022 年 3 月開催について」、「残りのスマートシティスクール活動」について、受講生対象の意向調査を行い、その結果を考慮して、今後のスマートシティスクール活動等の方針を決めることとした。調査概要と結果は次のとおりである。

受講生意向調査

【調査目的】

2022 年 1 月に開催を予定していた「urban design week.」は延期となり、3 月の開催も確定していない状況下における受講生の「urban design week.」や残りのスマートシティスクール活動についての考え、思いを把握する。

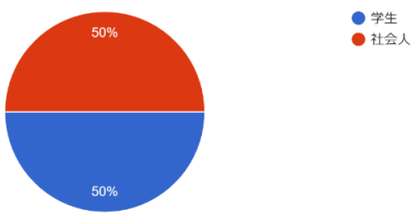
【調査概要】

期間：2022 年 2 月 15 日～ 23 日の 9 日間
方法：アンケート形式（Google フォーム）
対象：受講生 40 名
回答数：22（回答率 55.0%）

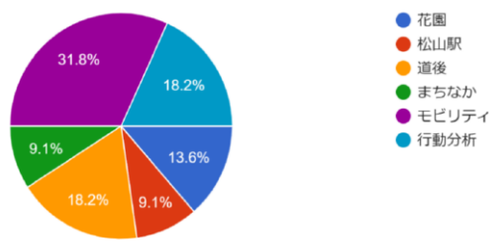
調査票（Google フォーム）

【調査結果】

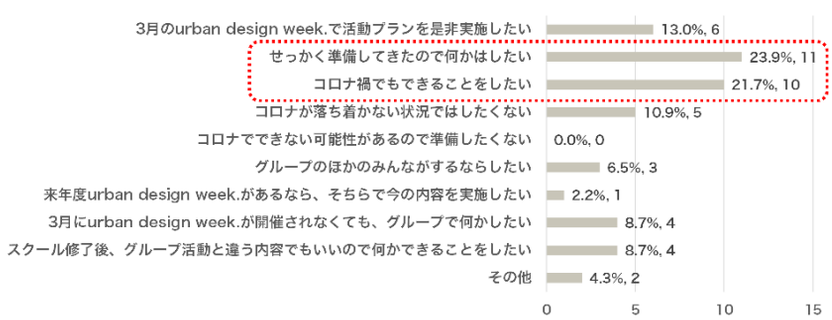
回答者の内訳（N=22）



回答者の所属グループ（N=22）



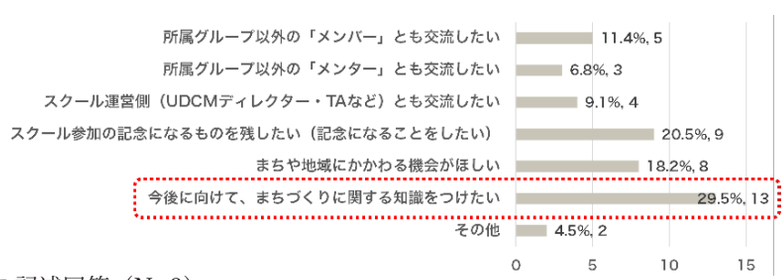
「urban design week.」の３月開催に向けて、回答者の思いに近いもの。複数選択可。（N=46）



その他選択

・　３月もおそらく開催することはできないと思うので、どうするのかを早い段階で教えていただきたいです。
・　イベントの実施にはこだわらないが、何か成果として取りまとめたいとは思う

残りの「アーバンデザイン・スマートシティスクール」の活動の中で、取り組んでみたいことについて、回答者の考えに近いもの。複数選択可。（N=44）



その他選択者の記述回答（N=2）

・　当初からの計画通りにアーバンデザイン・スマートシティスクール事業を終えるに越したことはないですが、新型コロナウイルス感染拡大という非常にイレギュラーな状態の中で、無理をしてまで当初の計画に沿う必要は無いようにも感じます。実証実験や発表会などに関して、です。
・　一回きりの交流で得られるものはグループで得られるものとは異なるので、それを踏まえた交流なら行いたい

調査結果を見てみると、社会実験の 3 月開催については、半数もしくは半数に近い回答者が「せっかく準備してきたので何かはしたい（11 名）」「コロナ禍でもできることをしたい(10 名)」を選択している。一方で「3 月の urban design week. で活動プランを是非実施したい（6 名）」「コロナが落ち着かない状況ではしたくない（5 名）」「3 月に urban design week. が開催されなくても、グループで何かしたい（4 名）」「スクール修了後、グループ活動とちがう内容でもいいので何かできることをしたい（4 名）」「グループのほかのみんながするならしたい（3 名）」を選択した回答者も複数名いる。

残りのスマートシティスクールの活動については、半数を超える回答者が「今後に向けて、まちづくりに関する知識をつけたい（13 名）」を選択し、回答者の“学び（知識取得）”に対する興味・関心が、他の選択肢（メンバーやスタッフとの交流など）よりも高いことが伺える。「スクール参加の記念になるものを残したい / 記念になることしたい（9 名）」と「まちや地域にかかわる機会がほしい（8 名）」という選択肢が、グループ外のメンバーやメンターとの交流を希望する選択肢よりも、多くの回答者の興味・関心を集めている。

受講生の意向調査の結果と、COVID-19 の感染拡大状況を総合的に判断し、今後の方針を次のとおりとした。

【社会実験の開催について】

- 2021 年度内の開催は断念し、2022 年度に開催を延期する
- 2022 年 3 月に向けて準備中の各グループの活動プランについては、2022 年度に開催を延期する社会実験での実施を目指す

【残りのスマートシティスクール活動について】

- 社会実験は 2022 年度に延期するが、2022 年 3 月に個別のグループ活動として開催したいという意向のあるグループに関しては、非接触での準備や実施が可能な内容に限り、実施に向けて支援する
  - ➢ 6）個別のグループ活動
- 2022 年 4 月に修了式を行い、スマートシティスクール活動としては一区切りをつける
- 修了式では、修了証だけでなく、修了の記念として UDCM オリジナルの記念品を授与する
  - ➢ 7）修了証と記念品
- 修了式までの間、活動プラン実施の代替え企画を行う
  - ➢ 8）代替え企画

7）個別のグループ活動

各グループに、個別での活動プラン実施の意向を確認したところ、花園グループから 2022 年 3 月にグループ単独で活動プランを実施したい旨の回答があった。また、まちなかグループからは 2022 年 4-5 月頃にグループ単独で活動プランを実施する予定であると連絡があった。その他のグループについては、2022 年度内に開催予定の社会実験『urban design week.』にあわせて実施したい旨の回答があった。

今回は、実際に 2022 年 3 月に単独で実施した、花園グループの活動について振り返る。

花園グループ（花園応援隊）

グループで話し合った結果、《こたつ de 団らん》の実施は見送り、非接触で実施できる《花園町通り えがおの写真展》と《はなぞのくじ》のみ、3 月に実施することになった。2 企画の実施概要については次のとおりである。

《花園町通り えがおの写真展》
実施期間：2022 年 3 月 12 日～ 24 日（13 日間）
実施内容：

花園町通りのいろんな使い方があることやその可能性について表現するために、これまで地元や UDCM が行ったプログラム開催時の写真をバナーにして展示した。

実施結果：

花園町通りの 15 本の照明柱に、14 枚の写真と展示タイトルのバナーを 13 日間設置。花園町通りで照明柱を利用したバナー展示を行うのは、今回が初めての試みだったため、市役所の関係部署の皆さまにはたくさんのご協力をいただいた。また、実施の様子をみた地元のキーパンソンの方々にも好評で、地元主催のイベント用バナーを制作しようと思うと言ったコメントもあり、スクールでの取り組みがきっかけで、地元主体でのバナー展示が継続的に実施される可能性が出てきた。

実施の様子（花園町通り えがおの写真展）

《はなぞのくじ》
実施期間：2022 年 3 月 12 日～ 31 日（20 日間）
実施内容：

『はなぞのくじ』は、通りの魅力をもっと知ってほしいというグループメンバーの思いを込めたオリジナルくじで、通りのシンボルである“イチョウ”のかたちをしている。花園町通りの 3 か所（UDCM もぶるラウンジと通りの 2 店舗）にくじ箱を設置し、箱ごとにくじの内容が異なっている。

はなぞのくじ
（上：UDCM 設置くじ、右下：ラルキー設置くじ、
左下：モンマルトル設置くじ）

UDCM もぶるラウンジに設置のくじには、運勢と通りでの楽しい過ごし方の提案内容を記載し、参加者がメッセージを書き込むスペースも設けた。協力店舗ラルキーさんに設置したくじには花園町通り関係者からの笑顔メッセージ、協力店舗モンマルトルさんに設置したくじには花園生まれの俳人 正岡子規の俳句が記載されている。そして、グループメンバーが協力店舗に交渉し、「大吉」が出た際の特典（焼き菓子や飲み物のプレゼント）を期間限定で用意していただけることになった。

また《はなぞのくじ》については、当初、グループメンバーが対面・口頭で、くじ参加の呼びかけや内容の説明を行おうとしていたため、非接触に切り替えるにあたって、「はなぞのくじの説明動画」をグループメンバーが制作し、UDCM に設置するくじ箱の横で、その動画を流した。

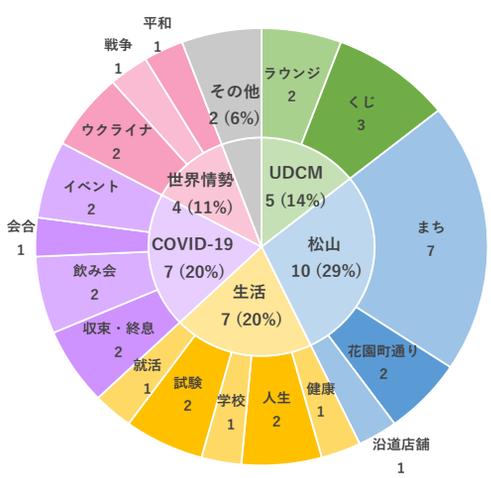
はなぞのくじ説明動画の一場面

参加者がメッセージを掲示している様子

実施結果：

延べ参加者数は 58 人（UDCM 設置くじ箱 41 人、モンマルトル設置くじ箱 15 人、ラルキー設置くじ箱 2 人）であった。期間中、UDCM 前庭に、書き込んだメッセージを掲示するスペースを設けたところ 35 枚のメッセージが寄せられた。メッセージを内容別に整理すると、円グラフのとおりである。

松山のまちや花園町通りに関することなど「松山（10 枚 ,29%）」について書かれたメッセージが 3 割近くあり、最も割合を占めた。はなぞのくじや、もぶるラウンジのことなど「UDCM（5 枚 ,14%）」に関するメッセージは 1 割弱、学校生活や生き方・暮らし方についてなど「生活（7 枚 ,20%）」に関するメッセージは 2 割を占めた。また「COVID-19（7 枚 ,20%）」の収束・終息を願うものや、「世界情勢（4 枚 ,11%）」を受けて世界平和を願うメッセージなども寄せられた。



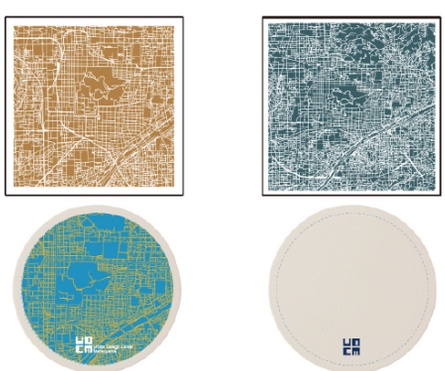
円グラフ - メッセージの内容別（N=35）

「松山」、「生活」、「COVID-19」に関するメッセージの割合を合わせると 6 割強を占めており、今回寄せられたメッセージの特徴として、日々の暮らしに直結している内容が過半数を占めたと捉えることができる。

8）修了証と記念品

修了証に加え、受講の思い出に残るような記念品を、修了式にて授与することとした。記念品の選定においては、普段使いができることや飾っておくだけの用途にも適していることを重視し、コースターを選定した。また､修了証および記念品（コースター）のデザインは、スクール TA が担うこととなった。4 月の修了式に向けて、制作途中のため、次の画像は、現在検討中のデザイン案である。完成した修了証と記念品については、次年度の年間報告書にて報告する。

検討中の修了証デザイン案



検討中の記念品（コースター）デザイン案

9）代替え企画

前述のとおり、受講生の意向を踏まえ、活動プラン実施の代替え企画を行うこととした。企画内容の検討においては、受講生全員が一堂に会さなくても、それぞれのタイミングや役割で参画することができること、受講生の今の思いやまちの様子を記録し、発信することができることに重きを置いた。その結果、受講生に今の思いや、予定していた活動プランのことなどを語ってもらう映像を制作することになった。なお、撮影や編集作業は、スクール TA が主体的に取り組むこととなった。

撮影の様子

映像制作の目的は下記の 3 点である。

- 社会実験『urban design week.』で実施予定だったアクティビティの敷地、運行予定だったモビリティの停留所・ルートを一人称視点で撮影しながらツアー形式で辿る映像とすることで、視聴者に『urban design week.』を追体験する機会を提供すること
- アーバンデザイン・スマートシティスクール受講生にツアー案内人として映像に出演してもらい、それぞれが実施予定だった活動プランの内容説明や今の思いを語ってもらうことで、スクール活動を映像として記録し、受講生自身が活動を振り返る機会を提供すること
- 映像を通して、松山のまちの課題や魅力を再考する機会を提供すること

完成した映像作品は、4 月の修了式にてお披露目を行い、その後、UDCM の YouTube チャンネルにて一般に公開する予定である。

（2）社会実験『urban design week.』

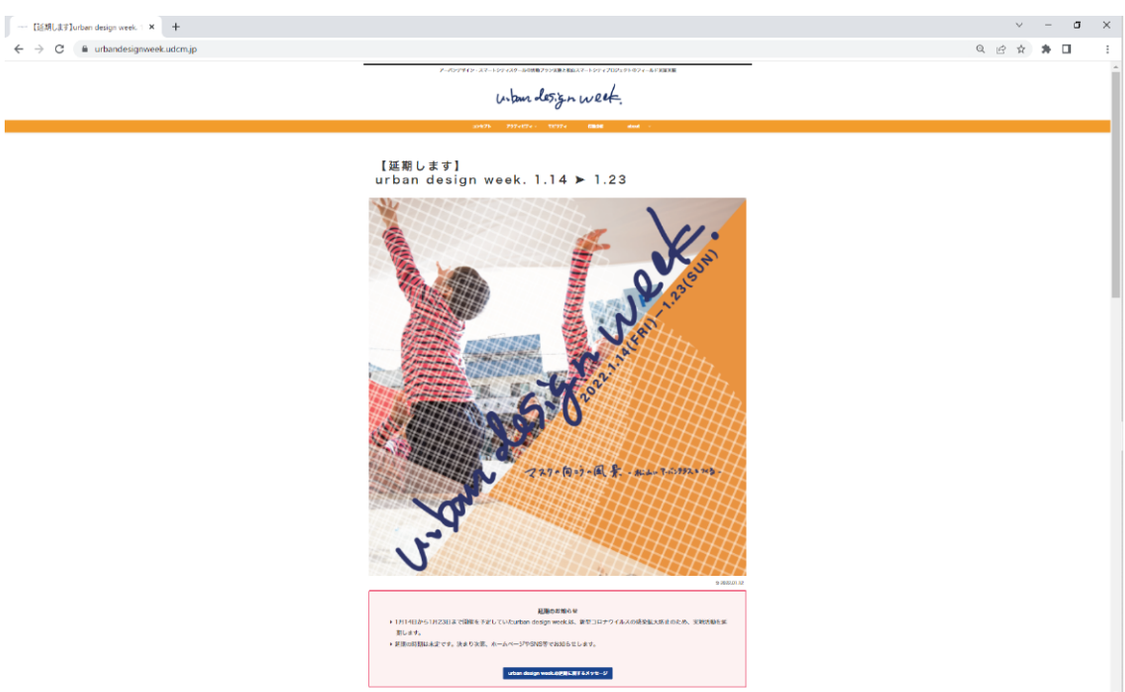
1）概要

『urban design week.』は、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の活動プラン実施と松山スマートシティプロジェクトのフィールド実証実験が連動した社会実験である。受講生やプロジェクトメンバーたちが、市内の各敷地での豊かな空間と機会（アクティビティ）づくり、それらをつなぐ車両（モビリティ、愛称：MATSUMOBI）運行に取り組む。「マスクの向こうの風景」をテーマに、都市の魅力・課題と向き合い、これからのまちについて参加者と共に考えることを目的にしている。

2022 年 1 月 14 日から 23 日までの 10 日間開催する予定であったが、前述のとおり 2021 年度内の開催を見送った。次項にて、予定していた各アクティビティとその敷地、モビリティなどについて紹介する。

2）内容

松山市内の 7 敷地でのアクティビティの運営と、それらをつなぐ 3 路線のモビリティ車両運行を行う。7 敷地の内、「花園町通り」、「松山駅周辺」、「まちなか」、「道後」の 4 敷地は、前述のスマートシティスクールのグループが活動プランを実施する敷地である。「堀之内」、「みかん山」、「余土」の 3 敷地は、スクール TA やメンターなど、スマートシティスクールのプロジェクトメンバーが企画を実施する敷地である。各敷地をつなぐモビリティ車両「MATSUMOBI」の運行はスマートシティスクールのモビリティグループが、道後グループとその連携企画による人の回遊行動調査と分析は行動分析グループが、それぞれ、松山スマートシティプロジェクトメンバーと共同で行う。各敷地のアクティビティの詳細や MATSUMOBI の運行路線、停留所の位置、乗り方などの詳細については、次頁以降のパンフレット画像で示すとおりである。



社会実験『urban design week.』ウェブサイト

urban design we

マスクの向こうの風景
-松山にアーバンテラスをつくる-

COVID-19は私たちの生活を一変させました。体調不良でなくとも常にマスクをつける日々を1年以上送っていると、様々な新しい習慣に慣れたように思えますが、実はとても大事なことを無意識の間に諦めてしまったようにも思えます。

離れて暮らす大事な人との触れ合い、大切な場所との往来、偶然居合わせた人と繰り広げる世間話、今この瞬間に肉眼でしか見られない景色、誰かと共有するおいしい食べ物飲み物。その一方で、オンライン会議システムをはじめ、我々が新たに手に入れたツールは、時間の使い方、日々の過ごし方、時間を過ごす場所を、時には便利に、時には豊かに、時には窮屈にしました。そして、そのツールや状況に対応できない人々を、無自覚に取りこぼし続けているとも言えます。

都市を考える上で、都市の良いところや魅力を認識することに注目が集まりがちです。しかし、魅力と並列で語られるべき都市の課題は、表立って気軽に共有や議論はされておらず、そういった状況に慣れてしまった我々は、そういうものだと無関心になってしまってはいないでしょうか。

都市を歩けば、よいところもあれば、やはり、そうでもないところも

SCHEDULE

DATE	ACTIVITY
1/14［金］	A B C D E F G H I J K L M N O P Q
1/15［土］	A B C D E F G H I J K L M N O P Q
1/16［日］	A B C D E F G H I J K L M N O P Q
1/17［月］	A B C D E F G H I J K L M N O P Q
1/18［火］	A B C D E F G H I J K L M N O P Q
1/19［水］	A B C D E F G H I J K L M N O P Q
1/20［木］	A B C D E F G H I J K L M N O P Q
1/21［金］	A B C D E F G H I J K L M N O P Q
1/22［土］	A B C D E F G H I J K L M N O P Q
1/23［日］	A B C D E F G H I J K L M N O P Q

UDweek. YouTube　UDweek. facebook　UDweek. Instagram

A	花園こたつ	11:30〜15:30
B	はなぞのくじ	10:00〜17:00
C	はなぞのサイネージ	終日
D	堀之内こたつ	12:00〜16:00
E	駅まち広場	11:00〜18:30
F	ランタン	11:00〜18:30
G	謎解きスタンプラリー	10:00〜17:00
H	いっぺん袋	17:00〜なくなり次第終了
I	まち歩きゲーム＋夕焼けベンチ	9:30〜12:30、13:30〜16:30
J	灯りのイベント	17:00〜19:00
K	みかん山こたつ	17:00〜19:00
L	日招きベンチ	10:00〜16:00
M	余土の農地×神社ツアー	13:00〜16:00
N	マスクツアー	特設サイトにてお知らせ予定
O	空想まちづくりワークショップ	特設サイトにてお知らせ予定
P	アーバンデザイン・トークテラス	特設サイトにてお知らせ予定
Q	音楽と映写のweekend party	12:00〜19:00

※詳しくは中面をご覧ください

PROJECT MEMBER

【全体統括】羽藤 英二　【現場統括】板東 ゆかり　【メンター】石飛 直彦／三谷 卓摩／片岡 由香／芝原 貴史／力村 真由／小林 里瑳　【TA】中出 舞／村上 悠斗／桂川 大誉／松尾 悠馬
【現場補助】吉田 英生／四戸 秀和／竹内 仁美／日野 順子／大野 利恵　【スクール受講者】東 賢吾／阿部 光／安倍 ひより／大西 桃果／大平 康治／岡田 直大／小川 大智／小川 真夢／北島 俊哉／木下 朋香／崎山 久美子／清水 朱里／城野 彩乃／須賀 拓実／雪井 稜真／高市 龍介／高田 まつり／竹原 悠花／太宰 誠／土田 聖／仲岡 光生／橋本 美月／平塚 愛生／福島 利昭／福富 涼加／藤田 遼／細川 直央人／正岡 采璃／増田 千哉／松本 亜子／眞部 良輔／森田 俊光／八代 優志／山口 瑠南／山之内 崇／山本 千絵／弓立 真紀／横井 恭佑／吉松 音々／和田 奈々／和田 留奈
【協力・助言】伊藤 香織／大山 雄己／重松 建宏／山澤 満／松本 啓治／胡 光／奥村 敏仁／大村 珠太郎／寺田 基／河村 清美／大野 正夫／佐々木 康弘／辻 早紀／羽鳥 剛史／松村 暢彦

敷地別パンフレッ

eek.

あります。大事にされてもよい場所が大事にされていない現状、人の営みに寄り添っていない空間、誰かの悲しい苦しい記憶が残る場所。まだ見えていないもの、気づいていないもの、見過ごされているもの、忘れ去られようとしているもの。

2022年を生きる我々が考えるべきこと、すべきこと、できることは何か。アーバンデザイン・スマートシティスクールのスクール生やTA、メンターたちが提案・実施する各アクティビティでは、都市や地域で過ごす豊かな空間と機会を取り戻します。すべてのアクティビティが、マスクの向こうの笑顔に出会いたくて、考え抜かれたものです。

アクティビティに寄り添うように走るモビリティは、次世代技術へのはじめの一歩を踏み出す実験です。モビリティや自らの歩みでめぐる各敷地では、地域の魅力はもちろん、様々な課題がむき出しになっています。アクティビティやモビリティによる行動を分析しつつ、課題に向き合う仕掛けを通して、可視化にもチャレンジします。

無意識、無自覚、無関心のマスクを、我々は外すことができるでしょうか。都市を見つめるまなざしを覆っているマスクの向こうにある風景を、urban design week.をきっかけに、一緒に見に行きましょう。

MOBILITY

●MATSUMOBI

将来のモビリティサービスのかたちを検討するため、urban design week.のさまざまなプログラムをつなぐ車両（愛称：MATSUMOBI）を運行します。※MATSUMOBIは、松山スマートシティプロジェクトのフィールド実証実験の一部として運行されます。

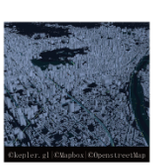
●運行日／2022年1月19日（水）～23日（日）までの5日間
●運行時間帯／9:00-13:00と14:00-18:00
●料金／無料　●利用者／どなたでも利用可能（ただし乗車時アンケートへの回答にご協力ください）

MATSUMOBIの詳細はこちら

運行ルート&利用方法については裏面をご覧ください →

●松山スマートシティプロジェクト

既成市街地の更新や次世代都市サービスの導入をモデルケースとして、データ駆動型都市プランニングに基づいた歩いて暮らせるまちづくりの実現を目指している。公民学が連携する松山スマートシティ推進コンソーシアムにより、民間企業や大学が持つ技術・情報等を活用した取組みを行っている。



●urban design week.

アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の活動プラン実施と松山スマートシティプロジェクトのフィールド実証実験が連動した社会実験。スクール受講者やプロジェクトメンバーたちが、市内の各敷地での豊かな空間と機会（アクティビティ）づくり、それらをつなぐ車両（モビリティ、愛称：MATSUMOBI）運行に取り組みます。都市の魅力・課題と向き合い、これからのまちについて参加者と共に考えます。

●アーバンデザイン・スマートシティスクール松山（主催：UDCM　後援：松山市）

地域資源を生かし、新たな公共空間の構想と計画を実践する市民参加型学習プログラム。2021年7月開講。公募で集まった41名（学生24名、社会人17名）が受講中。オンライン・オフラインを織り交ぜながら計画・準備を進めました。

WEEKEND PARTY

松山市駅から徒歩5分、松山のワンダーランド「高本ビル」にてpartyを開催。日中はビル2階でDJ企画、日没からはビル壁面へのOHP投影や駐車場での音楽ライブ等を予定。暖かい服装でお越しください。
日時：2022年1月23日（日）12:00～19:00
会場：高本ビル（松山市三番町6丁目5-7）
入場無料・予約不要　主催：UDCM
協力：めしSAKE珈琲 高本／SAADIA Records／Small Island Union　→MAP Q

注意事項

- マスクの着用などCOVID-19感染拡大防止策にご協力をお願いします
- 体調がすぐれない方（発熱、咳など）は、参加をお控えください
- 人数制限など、COVID-19感染拡大防止の観点からスタッフの指示があった場合はご協力をお願いします
- 現地に掲示する「えひめコロナお知らせネット」LINE登録や厚生労働省アプリ「COCOA」使用にご協力をお願いします
- 天候やCOVID-19感染拡大状況等に応じて、延期や中止、内容の変更などが発生する可能性があります。予めご了承ください
- スタッフは、本社会実験の記録のために写真及び動画を撮影します。予めご了承ください

その他のまち情報

❶PAAC展示

松山ブンカ・ラボとめぐりて（文化・芸術の観客の集い）が共同で、PAAC平和通りアートセンターを会場にして、演劇のチラシにフォーカスを当てた展示をおこないます。

展示「愛媛・演劇の21世紀 – チラシ・アーカイブ展 2000-2021（中予編）」

日時：2021年12月15日（水）～2022年1月16日（日）
平日：11:00～15:00、土日祝：13:00～17:00
会場：PAAC平和通りアートセンター（物語カフェかまどねこ2階）
松山市平和通1-1-2
入場無料・予約不要　主催：めぐりて、松山ブンカ・ラボ
→MAP a

❷社日（やしろび）お話しイベント「石の上でも雑念」

松山ブンカ・ラボのスタッフ松宮が個人的にゲストを招いて古本屋でお話しするプログラムです。今回は韓国語の発音や言葉そのものの面白さ、さらには韓国に滞在した時の思い出についてお話しします。

トークタイトル「韓国語を勉強し始めました」

日時：2022年1月20日（木）19:00～20:00
話し手：松宮俊文　話し相手：遠藤純一郎（美術家）
会場：社日（やしろび）松山市柳井町1丁目13-16-101
参加無料（会場が古本屋ですので、もし気に入った本があったら購入いただけると嬉しいです）　主催：松宮ブンカ・ラボ
→MAP b

フレット（概要面）

ACTIVITY

特設サイトはこちら

当日情報はTwitterにて

A 花園こたつ

1/14～23（11:30～15:30）
こたつに座って、いつもともがった高さでまちを楽しもう。周辺でイベント等もあり

B はなぞのくじ

1/14～23（10:00～17:00）
UDCMと周辺2店舗をめぐって完成する花園オリジナルおみくじ。テーマは「笑顔」

C はなぞのサイネージ

1/14～23（終日）
「笑顔」の写真やコメントがずらり。いつもともがった角度でまちを眺めてみよう

D 堀之内こたつ

1/15～20・22（12:00～16
公園で過ごす時間を楽しむ
所づくり。ちょっと温かくなる

I まち歩きゲーム+夕焼けベンチ

1/15・16（9:30～12:30、13:30～16:30）
写真を撮ってまちを再発見するまち歩きゲーム。ゲーム後に夕焼け鑑賞会もあり。申込制

J 灯りのイベント

1/15・16・22（17:00～19:00）
かつて賑わいに溢れていた上人坂を、光を用いて追体験する空間に

K みかん山こたつ

1/15・16・22（17:00～19:00）
かつてのみかん山を、駐車場のこたつで追体験。お茶のお接待などあり

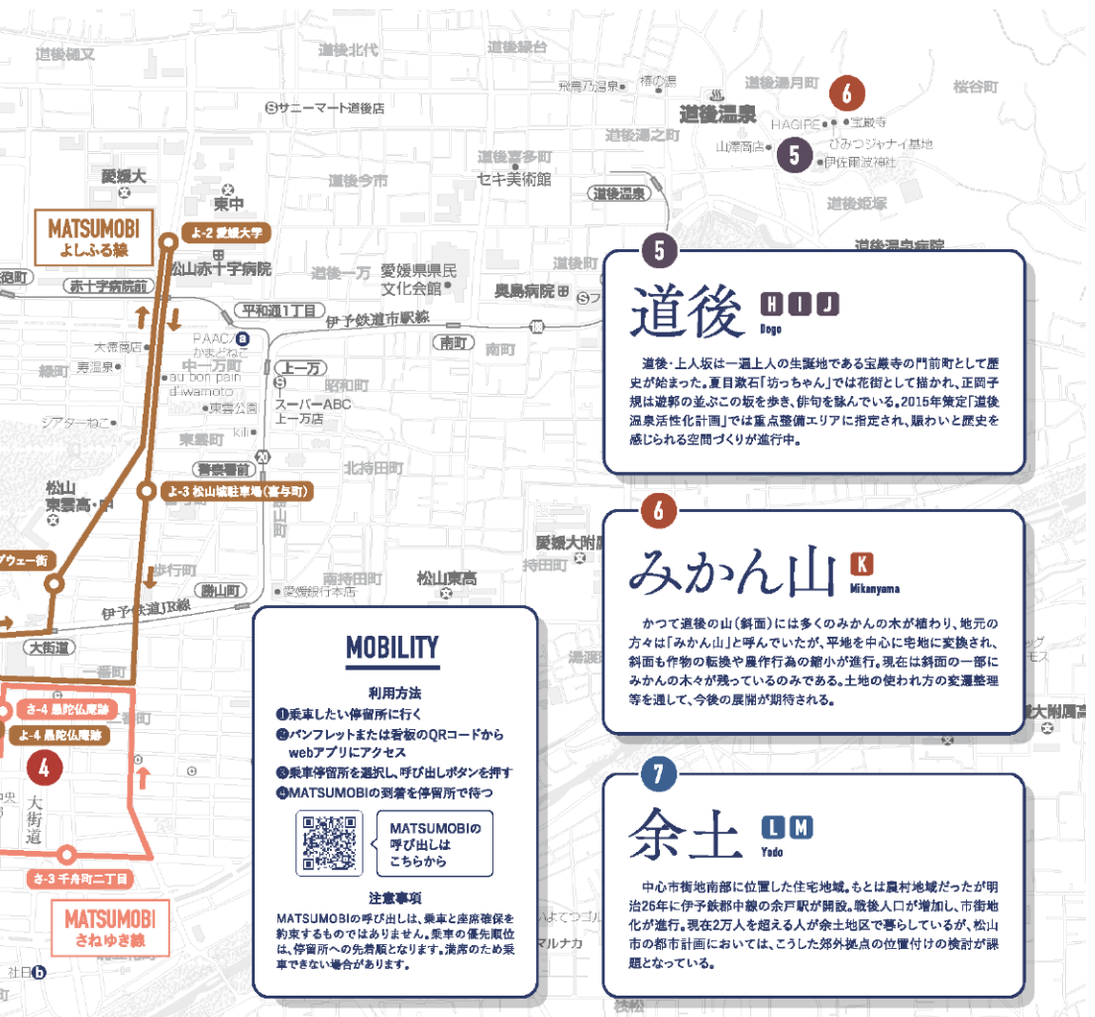
L 日招きベンチ

1/17～1/23（だいたい10:00～16:00）
郊外の境内にベンチとカフェが登場。新しい地域コミュニティのありかたを考えましょう

M 余土の農地×神

1/17・19・23（13:00～16
郊外に焦点をあて、古いもの
り重なった景観を断らうツア

全体パンフレット



2:00〜16:00)
間を楽しむための小さな屋場
温かくなる仕掛けあり

E 駅まち広場

1/16・23(11:00〜18:30)
駅待ち時間を豊かにする空間づくり。仮設の芝生やハンモックで未来の駅前空間を先取り

F ランタン

1/16・23(11:00〜18:30)
沿い印象のある現在の駅前を、ランタンづくりワークショップで一緒にあたたかく照らしましょう

G 謎解きスタンプラリー

1/21・22(10:00-17:00)
まちなかの歴史が感じられる謎解きスタンプラリー。申込制

H いっぺん袋

1/15・16・22(17:00〜なくなり次第終了)
道後の魅力が詰まった光る袋を配布。持って歩いて上人坂に光を集めよう

地×神社ツアー

:00〜16:00)
、古いものと新しいものの折
語らうツアー。申込制

N マスクツアー

特設サイト(QRコード先)にてお知らせ予定
まちの課題と向き合い考えるオフィシャルスタディツアー。申込制

D 空想まちづくりワークショップ

特設サイト(QRコード先)にてお知らせ予定
こんなだったらいいなのまちの空想アイディアを出し合うコミュニケーションワークショップ

P アーバンデザイン・トークテラス

特設サイト(QRコード先)にてお知らせ予定
各徴地での取り組みなどについて、ゆったり話す場(テラス)を開く ※配信あり

Q 音楽と映写のweekend party

1/23(12:00〜19:00)
高木ビルにてparty開催。12時からビル2階でDJ企画、17時から駐車場でバンド演奏と映写

ット（マップ面）

CONCEPT

市民のための
市民による通り

花園グループ一同

「花園町通り」は2017年にリニューアルが完了した松山市のシンボルロードです。リニューアル直後から地元主体で賑わいイベント等が開催され、2019年からはUDCMが利活用の社会実験等に取り組み始めるなど、公共空間を使ったまちの楽しみ方、過ごし方の下地が形成されつつあります。

一方でCOVID-19は花園町通りの事業者、住民にも大きな影響を与えました。状況の変化とともに多くの方の生活、まちへのかかわり方が今も変わり続けています。そういった状況下でまちのことを学び、グループメンバーで考え出した企画が『笑顔ひろがる つながる団らん プロジェクト』です。

通りを、目の前の人を自分たちなりに元気づけたい、笑顔にしたい。そのことで、また別の誰かを笑顔にしたいと考え、通りの中で笑顔がつながり、団らんのようなあたたかい場をつくる3つの企画に取り組みます。“笑顔ひろがるつながる団らん”の場を、花園町通りで一緒につくりましょう。

ACTIVITY CONTENTS

いろんな角度と視点で通りを楽

笑顔つながる　ひろがる団らん　プロジェクト

●屋外空間の楽しみ方を表現する
《花園町通り えがおの写真展》

通りで日常的にくつろいだり、ちょっと何か活動してみたりすることで、まちを見る視点や角度が変わり、日々の暮らしがちょっと豊かになると考えています。また、そういった風景が広がっていることが、まちの豊かさの一つであるとも考えます。いろんな使い方があることやその可能性について表現したく、これまでの地元やUDCMの活動写真を展示します。花園町通りで照明柱を利用した展示をおこなうのは今回が初めての試みです。いつもよりゆっくり歩いて、通りの、まちの可能性を一緒に感じましょう。

●花園町通りをめぐって完成する
《はなぞのくじ》期間中毎日10:00〜17:00

通りの魅力をもっと知ってほしいというメンバーの思いを込めたオリジナルおみくじ『はなぞのくじ』をつくりました。通りのシンボルである“イチョウ”のかたちをしたこのくじは3か所（UDCMもぶるラウンジと通りのお店2店舗）にわけて箱を設置し、箱ごとに記載項目が異なります。全部引いて、あなたのくじを完成させてください。3種類集まったらラウンジで記念品を、「大吉」が出たらお店で特典のプレゼントがあります。

敷地別パンフレット

AREA INTRODUCTION

賑わいと交流を育む「広場を備えた道路」

花園町通り　Hanazonomachi St.

花園町通りは、松山の交通の結節点、松山市駅と堀之内（城山公園）を結ぶ全長約250mの通りです。かつては通行量の減少や空き店舗の増加、大量の放置自転車やアーケードの老朽化などさまざまな課題を抱えていましたが、約7年をかけて市民との対話や社会実験を繰り返し、今の姿に生まれ変わりました。

整備により6車線あった車道は2車線まで減少、自転車道も整備され、広がった歩道にはウッドデッキやベンチ、俳人 正岡子規にちなんだ植栽や俳句ポストが設けられました。毎月第3日曜日には「お城下マルシェ花園」、第4日曜日には「まつやま花園日曜市」、毎週土曜日には「産直市」が地元主体で開催されています。

urban design week.

URBAN DESIGN WEEK.
Hanazonomachi St. Area Group
presented by UDCM

MENTOR
板東 ゆかり

MEMBER
東 賢吾 | 阿部 光 | 木下 朋香 | 仲岡 光生
平塚 愛生 | 細川 直央人 | 竹内 仁美

UDCM

楽しみませんか？

●路上空間をゆったり味わう
《こたつ de 団らん》 期間中毎日11:30〜15:30

UDCMもぶるラウンジ前通りに、期間中毎日こたつが登場。日常的に設置してみると、どんな活動や風景が生まれるのでしょうか。平日は、こたつの隣にキッチンカーも出店し、温かい飲み物などを販売します。土日は、通り全体で地元主体のイベントが開催されます。路上に座り込んでまちを眺めてみると、また違う発見や新たな出会いもあるかもしれません。家族や友人と、ふらりとお一人でも、ぜひぬくもりにお越しください。

Photography: Shuhei Miyahata

TIME TABLE

当日情報はこちら

ACTIVITY / DATE	花園町通りえがおの写真展	はなぞのくじ	こたつ de 団らん	キッチンカー ※1	花園町通り地元イベント ※2
1/14 [金]	●	●	●	●	
1/15 [土]	●	●	●		●
1/16 [日]	●	●	●		●
1/17 [月]	●	●	●	●	
1/18 [火]	●	●	●	●	
1/19 [水]	●	●	●	●	
1/20 [木]	●	●	●	●	
1/21 [金]	●	●	●	●	
1/22 [土]	●	●	●		●
1/23 [日]	●	●	●		●

※1／キッチンカー出店時間 11:00〜16:00
※2／1/15(土)・1/22(土)花園町通り産直市、1/16(日)お城下マルシェ花園、1/23(日)まつやま花園日曜市が開催予定。
詳細は「花園みんなで創るプロジェクト」HPをチェック

レット（花園町通り）

CONCEPT

こころほかほか
城下で冬ごもり

堀之内グループ
中出 舞

松山城堀之内には広大な芝生広場を有する城山公園があります。公園内には美術館や図書館などの公共施設が立地し、豊かな自然とともに季節の移り変わりを楽しむことができる松山市を代表する都市公園です。最近では、数台のフードトラックが城山公園に集まる「堀之内マルシェ（ほりマル）」が継続的に開催されており、美味しい食べ物をテイクアウトして公園でのんびり食べるといった新しい公園の楽しみ方が広がりつつあります。

新型コロナウイルスによって、人々はさまざまなものを失いました。しかし同時に、新しい日常に対する多様な向き合い方が生まれました。その一つに、「公園で過ごす時間を楽しんでみること」があると私たちは考えます。公園は誰もが、ただのんびりしたり、美味しいものを食べたり、好きな人と笑い合ったりできる場所です。堀之内グループは、城山公園での小さな居場所づくりを通じて、皆さんの心が“ちょっと温かくなる”企画を実施します。

ACTIVITY CONTENTS

冬の城下でちょっとのんびりし

こころほかほか　城下で冬ごもり

●こたつの設置

城山公園のさくら広場にこたつを設置して、のんびりできる温かい座り場を提供します。近くには「堀之内マルシェ（ほりマル）」のフードトラックが出店しているので、購入した飲み物や食べ物をこたつに入りながらお楽しみいただけます。もちろん、こたつに入るだけでも大歓迎です。冬の城山公園を一緒に温かく過ごしましょう！

イメージ

こたつ・おしるこ・凧あげ
場所｜城山公園 さくら広場
時間｜12:00-16:00　参加費｜無料

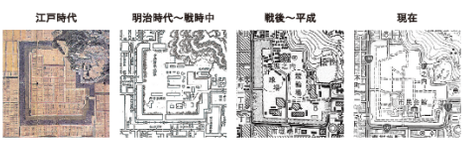
敷地別パンフレッ

AREA INTRODUCTION

武士から兵士、そして人々のための居場所に

堀之内 Horinouchi

現在は緑豊かな堀之内ですが、その使われ方は時代の移り変わりに伴って大きく変化してきました。江戸時代に遡ると藩主の御殿や藩の役所、数十名の家臣の屋敷が建ち並ぶ上級武士の居住区であったとされています。明治時代から太平洋戦争期までは陸軍歩兵22連隊の兵舎が置かれ、軍事の拠点として使われていたため、一般の人は立ち入ることができない場所でした。終戦後には野球場、プール、競輪場、がんセンターなどの施設ができ、多くの人々が自由に活動できる場所となりました。平成に入り、これらの施設は老朽化のため建て替えが検討されますが、国の史跡「松山城跡」に指定されていることから、新たに施設を建設することは困難とされ、それぞれ郊外へと移転しました。その後は2000（平成12）年に策定された「城山公園（堀之内地区）整備計画」を基に段階的に整備が進められ、2010（平成22）年には第1期整備が完了し、芝生広場の広がる現在の城山公園が生まれました。



urban design week.

URBAN DESIGN WEEK.
Horinouchi Area Group
presented by UDCM

MEMBER
村上 悠斗 | 桂川 大誉 | 松尾 悠馬 | 中出 舞

UDCM

しませんか？

●おしるこの配布

期間中の月曜日と土曜日に1日30食限定でおしるこを配布します。こたつに入りながら、公園をお散歩しながら、楽しんでみてください。

●凧あげ

期間中の月曜日と土曜日に凧あげを実施します。自由に絵を描くことができる無地の凧を用意しておりますので、冬の思い出づくりにぜひご参加ください。

●堀之内マルシェ（ほりマル）

城山公園にはほぼ毎日、3台から4台のフードトラックが集まります。美味しい食べ物がたくさん販売されていますので、堀之内グループの企画と合わせてぜひお楽しみください。

フードトラック出店情報

場所｜城山公園東口（県庁側入口すぐ）　時間｜10:00-15:00

TIME TABLE

当日情報はこちら

DATE ＼ ACTIVITY	こたつの設置	おしるこの配布	凧あげ	ほりマル
1/14［金］				●
1/15［土］	●	●	●	●
1/16［日］	●			●
1/17［月］	●	●	●	
1/18［火］	●			●
1/19［水］	●			●
1/20［木］	●			●
1/21［金］	●			●
1/22［土］	●	●	●	●
1/23［日］				●

※1／おしるこは1日30食限定・無料
※2／凧あげは数量限定・無料
※3／ほりマルは商品がなくなり次第終了

urban design week.

フレット（堀之内）

CONCEPT

遊び心ある
芝生広場でまったり
「駅待ち時間」を豊かに

松山駅グループ メンバー代表
福富 涼加

松山駅は、約1万4000人の通勤・通学客が毎日利用する駅であると同時に、観光客が松山を電車で訪れる際に最初に降り立つ愛媛県松山市の玄関口です。その一方で、公共交通機関を利用して移動する場合、道後温泉まで約35分、大街道まで約20分とアクセスがやや不便であり、駅待ち時間が発生してしまうという課題を抱えています。

そこで、私達は、交通結節点である松山駅での駅待ち時間を、駅利用者にとって、もっと楽しく・短く・豊かなものにしたいと考え、駅前芝生広場の仮設及びランタンイベント開催を企画しました。誰もが気軽に立ち寄り、自由に使うことのできる場所を提供すること、参加型の光のイベントを開催することで、憩いの広場の実現を目指します。街と街を繋ぐ「駅」という場を、人々の心と記憶に寄り添う空間にしたいです。

ACTIVITY CONTENTS

未来の駅まち空間を先取りしま

楽しい・短い・豊かな「駅待ち時間」を一緒につくりましょう

※イメージ

●駅前芝生広場の仮設

約60㎡の人工芝の上にテントやハンモック、クッションなどを設置し、来場者がリラックスできる空間を用意します。過ごし方は、団欒・ランチ・昼寝・読書など自由です。また、備え付けのストーブ、貸出用の毛布があるため、寒さ対策の心配は要りません。休日の松山駅周辺で、暖を取りながら楽しい時間を過ごしてみませんか？

場所｜松山駅舎南側敷地
日時｜1/16(日)・1/23(日)11:00〜18:30
参加費｜無料

敷地別パンフレット

AREA INTRODUCTION

街とともに変わりゆく、松山の陸の玄関口

松山駅　Matsuyama Sta.

松山駅は1927年に鉄道省（日本国有鉄道、四国旅客鉄道株式会社の前身）予讃線の駅として開業した歴史の長い駅です。開業後は1953年の戦後復興改築や1964年の増改築工事、2000年のリフレッシュ工事を経て、現在の木目調のレトロな内装の駅舎になりました。2008年からは愛媛県「JR松山駅付近連続立体交差事業」の一環として、鉄道路線の高架化、路面電車の延伸、駅舎のバリアフリー化、西側駅前広場新設、松山市による土地区画整理事業や街路整備などが進められています。これら事業の完了によって、東西市街地の分断、交通渋滞といったまちの課題解消が期待されています。

画像引用元：愛媛県HP「JR松山駅付近連続立体交差事業」

urban design week.

URBAN DESIGN WEEK.
Matsuyama Sta. Area Group
presented by UDCM

MENTOR
芝原 貴史

MEMBER
崎山 久美子 | 太宰 誠 | 橋本 美月 | 福富 涼加
眞部 良輔 | 八代 優志 | 横井 恭介

UDCM

ませんか？

●ランタンづくり ワークショップ

松山駅舎の南側・北側の2つの広場にランタン作製ブースを用意します。大きさ25cm×43cmの和紙に思いのままに文字やイラストを描き、夜の松山駅を彩りませんか？

場所｜松山駅舎北・南側敷地
日時｜1/16(日)・1/23(日)11:00〜17:00
参加費｜無料（1日50個限定）

●ランタン点灯

作製したランタンを日の入り後1時間展示します。広場に散りばめられた手作りの温かい灯りをお楽しみください。

場所｜松山駅舎南側敷地
日時｜1/16(日)・1/23(日)17:30〜18:30

TIME TABLE

当日情報はこちら

ACTIVITY / DATE	駅前芝生広場の仮設	ランタンづくりワークショップ ※1	ランタン点灯
1/14［金］			
1/15［土］			
1/16［日］	●	●	●
1/17［月］			
1/18［火］			
1/19［水］			
1/20［木］			
1/21［金］			
1/22［土］			
1/23［日］	●	●	●

※1／1日50個限定、なくなり次第終了
※いずれも小雨決行、暴風時中止

urban design week.

レット（松山駅周辺）

CONCEPT

新しい
まちなかに出会う

まちなかエリアグループ
チームリーダー
大西 桃果

松山は文学のまちと言われ、子規の句や漱石の作品に代表されるように多くの文学者がこの街で作品を残しています。しかしながら、戦災によってまちなかの歴史的な建造物や文学ゆかりの地のほとんどは現存しておらず、当時の様子を窺い知ることが難しい状況にあります。また、松山のまちなかと言えば、城下町の町割りを継承した構成を下敷きに、中央商店街を中心として東に飲み屋街、西に官公庁や企業ビルの立ち並ぶエリアと、賑やかなまちの中心地として認識している方が多いのではないでしょうか。

私たちチームは、コロナ禍の影響もあり、まちなかを歩いて楽しむ機会が少ないことや来訪者の減少に端を発し、まちなかを散歩してもらい知られざる魅力を感じてもらえないかと考えました。

今まで知らなかったまちなか、普通に歩くだけでは知ることのできないまちなかに出会っていただくため、視覚的に文学のまちについて体験してもらうことができないかと、スマートフォンを活用したまち歩きイベントを企画しました。このイベントを通して、今まで知らなかった新しいまちなかに出会ってください。

ACTIVITY CONTENTS

知らない「まちなか」に出会いま

まちなかおさんぽ♧（MOC）

●スタンプラリー×謎解き×いまむかし

スマホを片手に、まちなかの各所で謎解きをしながら自由にまち歩きしていただくスタンプラリーを企画しました。松山のまちなかはとてもコンパクトで歩きやすく、散歩途中にひと息つけるお店も充実しています。誰もが一度は足を踏み入れたことのあるまちなかですが、昔から変わらないもの、全く変わってしまったものが混在しそれがまたこの街の魅力にも繋がっています。今まで何となく通り過ぎていたあの場所、気になっていたけれど良く知らないあの場所、誰もが知る王道からマニアックまで様々なスポットを巡っていただき新しいまちなかを発見してください。今回のurban design week.ではスポット数を厳選したお試し版ショートバージョンをお楽しみいただけるよう準備しております。完成バージョンのイベント実施内容については本企画の主催者「まちなかおさんぽ♧（MOC）」のSNSにて発信しますので是非フォローお願い致します！

敷地別パンフレッ

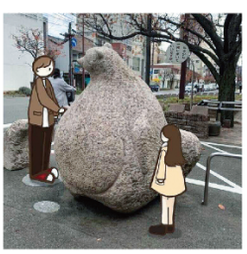
AREA INTRODUCTION

城下町の町割りを基盤とした盛り場

まちなか　Machinaka

まちなかの骨格を成す中央商店街は、国道11号を入り口とする全長483メートルの「大街道商店街」が南北に通り、商店街の南端から西へと全長約600メートルの「銀天街商店街」に接続し、西の端は松山市駅へと続いています。

かつての商店街南部と銀天街商店街が交差する湊町は、魚屋や惣菜店などが並び「魚の棚（うおのたな）」と呼ばれる庶民の市場としての役割を果たしていた場所です。中央商店街の歴史は古く、大街道商店街の北端には、かつて正岡子規と夏目漱石が見物した芝居小屋（新栄座）があり、まちなかに芝居小屋が点在していました。



文学ゆかりの地をいま訪れるとその多くは形を残さず、なかなかその土地の歴史に気づくことができなくなっています。

urban design week.

URBAN DESIGN WEEK.
Machinaka Area Group
presented by UDCM

MENTOR
片岡 由香

MEMBER
大西 桃果｜正岡 采莉｜吉松 音々｜和田 留奈
清水 朱里｜山本 千絵

UDCM

ませんか？

まちなか
おさんぽ

●イベントの詳細や参加のお申込み方法については以下のSNSにて発信します

今回のurban design week.ではスポット数を厳選したお試し版ショートバージョンをお楽しみいただけるよう準備しております。イベント期間中、各日20名様限定となりますので、下記のSNSをフォローの上、ダイレクトメッセージにてお申込みください（参加費無料）。お申込みいただいた方にイベント参加方法をお知らせ致します。なお、完成バージョンのイベント実施（今春を予定）についてもこちらのSNSにて発信しますので是非フォローお願い致します！

MOC_MATSUYAMA　Instagram　Twitter

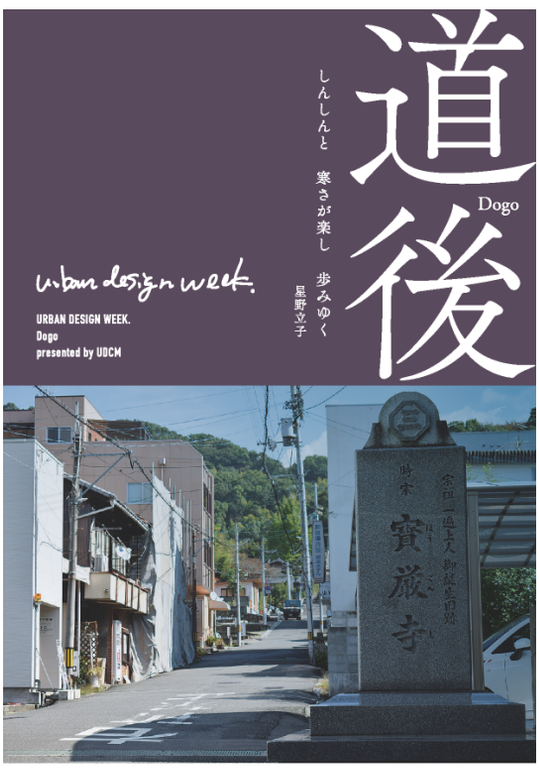
場所｜松山のまちなか（大街道・銀天街周辺エリア）
日時｜1月21日（金）10時～17時、1月22日（土）10時～17時
参加費｜無料　申込方法｜上記SNSにて申込方法を発信します

TIME TABLE

ACTIVITY / DATE	おさんぽ♔まち歩きイベント（ショートVer.）
1/14［金］	
1/15［土］	
1/16［日］	
1/17［月］	
1/18［火］	
1/19［水］	
1/20［木］	
1/21［金］	●
1/22［土］	●
1/23［日］	

※各日10時～17時まで（好きな時間に参加可能）
※イベント参加には人数制限があるため、事前申し込みが必要です。
詳しくは「まつやまおさんぽ♔（MOC）」のSNSをフォローしてください。

レット（まちなか）



CONCEPT

新たな上人坂で賑わいをもういっぺん

道後エリア チームリーダー
安倍 ひより

私たち道後グループは「新たな上人坂で賑わいをもういっぺん」というコンセプトを掲げ、道後地区の上人坂エリアにて、イベントを企画します。

上人坂は昔、宝厳寺の門前町として人が集まり、活気に満ちていました。現在は昔の印象とは異なり、人通りが少なく、駐車場や空き地が目立っている状況です。一方で、宝厳寺の再建やひみつジャナイ基地の設置、地域住民による様々な活動が活発化してきており、今後、道後地区においてさらに発展していくエリアでもあります。

道後全体においても「道後温泉活性化計画」の重点エリアとして上人坂エリアを掲げており、上人坂の整備による観光客の回遊性向上を狙い、道後温泉本館に依拠した観光の脱却を図っています。私たちは、これら道後地区全体の問題と向き合い、今回のイベント開催を通して、上人坂から賑わいの連鎖を広げ、道後全体を盛り上げることを目指しています。

ACTIVITY CONTENTS

「いっぺん袋」でぶらり坂さんぽ

新たな上人坂で賑わいをもういっぺん

●いっぺん袋をぶらさげて歩く

道後の魅力を詰めた「いっぺん袋」をぶらさげて、上人坂周辺を散歩しませんか。初めて道後を訪れた人も、何度も訪れたことがある人も、よりまち歩きを楽しむことができるはずです。上人坂には正岡子規が詠んだ花にまつわる俳句看板が8つ設置されています。ぜひ探しながら歩いてみてください。古くから様々な人が歩いてきた歴史のある坂を、じっくり歩いてみると、今まで気づかなかった新しい発見ができるかもしれません。

イベント期間中の土日は夕方から夜にかけて光を用いたイベントを行います。かつて人々が賑わい溢れた上人坂を皆で作り上げてみませんか。

みかん山グループ企画　土地を歩く食すそして、

1/15[土]、1/16[日]、1/22[土]
「喫茶575」にてこたつの設置、HAGIREのみかんくずゼリーのプレゼントをします。
場所｜宝厳寺北側駐車場　※1日あたり先着30名

※捨莉紙(しゃりがみ)…「捨聖(すてひじり)」と尊称される一遍上人の「捨てる思想」をコンセプトにした宝厳寺の新しい開運アイテムです。

敷地別パンフレ

AREA INTRODUCTION

道後温泉本館から宝厳寺へと向かう坂

上人坂　Syouninzaka

かつて上人坂は宝厳寺の門前町として歴史が始まりました。宝厳寺は時宗の開祖として知られる一遍上人（いっぺんしょうにん）の生誕地として、愛媛県指定史跡となっていますが、その参道の上人坂はネオン坂と呼ばれていた過去があり、夏目漱石の名著「坊っちゃん」では花街として描かれています。また、正岡子規は遊郭の並ぶこの坂を通り、宝厳寺の山門で「色里や十歩はなれて秋の風」と詠んだ、歴史深い場所でもあります。

2015年に策定された「道後温泉活性化計画」では重点整備エリアに指定され、賑わいと歴史を感じられる空間づくりを目指し、計画が進められています。

urban design week.

URBAN DESIGN WEEK.
Dogo Area Group
presented by UDCM

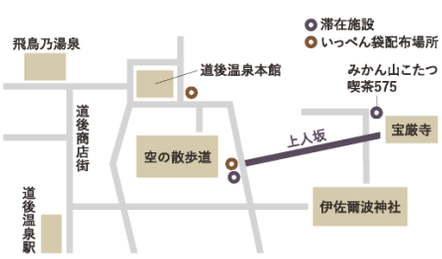
MENTOR
力村 真由

MEMBER
安倍 ひより｜小川 真由｜高市 龍介｜高田 まつり
竹原 悠花｜藤田 遼｜増田 千哉｜和田 奈々

COOPERATION
山澤商店｜宝厳寺

UDCM

ぽしませんか？



●滞在施設

上人坂には人が集い賑わう2つの滞在施設を設置。俳句を詠むもよし、おしゃべりをするもよし、温かい甘酒を飲みながら思い思いの時間をお過ごしください。

●捨莉紙体験

宝厳寺で販売している捨莉紙(※)体験を灯りのイベントに合わせて同時開催します。捨ててこそ得られる一遍上人のご利益を体感してみませんか。

TIME TABLE

当日情報はこちら

ACTIVITY / DATE	「いっぺん袋」でぶらり坂さんぽ	捨莉紙体験	滞在施設の設置	イイトコ道後イベント
1/14［金］				
1/15［土］	●	●	●	●
1/16［日］	●	●	●	●
1/17［月］				
1/18［火］	「いっぺん袋」の配布			
1/19［水］	灯りのイベント		甘酒の配布	
1/20［木］				
1/21［金］				
1/22［土］	●	●	●	
1/23［日］				

※いっぺん袋の配布…17:00～（なくなり次第終了）
※灯りのイベント…17:00～19:00（捨莉紙体験 同時開催）
※甘酒の配布…17:00～19:00　※雨天決行

イイトコ道後イベント詳細はコチラ➡

フレット（道後）

CONCEPT

土地を歩く
食す
そして、

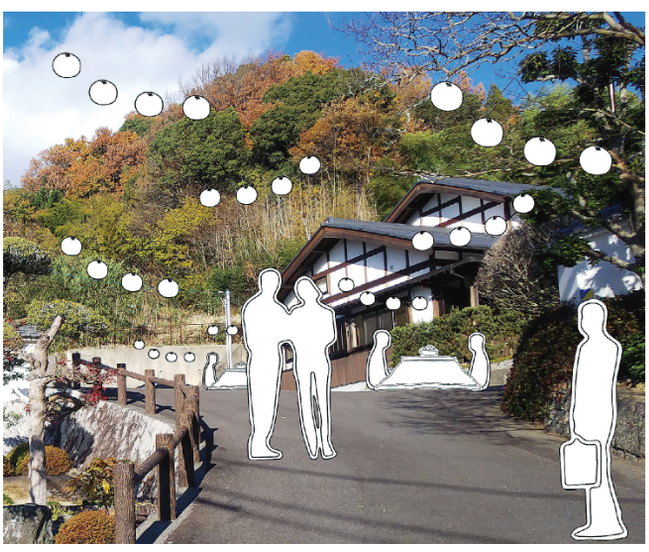
みかん山グループ
中出 舞、板東 ゆかり、力村 真由

かつて道後の山には、多くのみかんの木が植わり、地元の方々は「みかん山」と呼んでいました。親戚や友人を招いてみかん狩りをよくしていたという方もいます。当時の写真を見ると、まるでお花見のように、木々の間にレジャーシートを引き、机を並べ、和気あいあいともぎったばかりのみかんや持参した食べ物、飲み物を楽しんでいた様子が伺えます。またある方は、昔は道後の平地にも多くのみかんの木が植わっていたと言います。その後、道後のみかん山は平地を中心に宅地に変換され、斜面も作物の転換や農作行為の縮小が進みました。現在は、斜面の一部にみかんの木々が残っているのみです。俳人の正岡子規は、友人の夏目漱石と松山のまちを歩き、多くの俳句を残しました。彼らが歩いた頃の道後には、どんな風景が広がっていたのでしょうか。空間に投影されるみかん山の今の姿を、こたつと灯りの滞留スペースから眺めながら、みかん山を追体験し、これからの土地のことについて考えてみませんか。

ACTIVITY CONTENTS

「喫茶575」に腰うちかけてみま

のぼさんも歩いた坂の上につくるあったか滞留スペース



●こたつの設置

道後のみかん山にほど近い駐車場に、あたたかい滞留スペース「喫茶575」をつくります。道後グループが道後各所で配布中の「いっぺん袋」に入っている「みかんチケット」を持参すると、みかんくずゼリーを食すことができます。もちろん、お茶を飲むだけ、こたつに入るだけも大歓迎。空間に投影されるみかん山の姿を、こたつと灯りの滞留スペースから眺め、みかん山を追体験しましょう。

場所｜宝厳寺北側駐車場
時間｜17:00〜19:00　参加費｜無料

敷地別パンフレッ

AREA INTRODUCTION

みかんから柑橘、そして、

みかん山　Mikanyama

愛媛県は一年を通して温暖で晴れの日が多く、畑の土も水はけがよく、栄養分を多く含んでいることなど、おいしいみかんを作る良い環境に恵めぐまれています。このため1900年ごろから熱心に栽培する農家が増えはじめ、1968年にはみかん生産量が年間38万tとなり、静岡県を抜いて日本一になりました。2004年には新しい柑橘への植えかえが進み、生産量が少なくなってきたことから和歌山県に抜かれ、二位となりましたが、みかんから転換された品種などを含めた柑橘全体の量は全国一位のままです。

みかんの木が最も多く実をつけるのは苗木が植えられ15〜30年ぐらい経ってからです。それから少しずつ衰えていき、30年をすぎたころから若い木に植えかえられます。

参考文献：愛媛県農林水産部 農業振興局農産園芸課「愛媛のみかんのはなし」2014年11月

urban design week.

URBAN DESIGN WEEK.
Mikan Yama Area Group
presented by UDCM

MEMBER
中出 舞｜板東 ゆかり｜力村 真由

UDCM

ませんか？

●あたたかいお茶

栗の渋皮からつくられたお茶等のお接待を「喫茶575」でおこないます。量に限りがございますので、なくなり次第終了といたします。

●みかんくずゼリー［いっぺん袋参加者限定］

余った材料や規格外の柑橘をアップサイクルしてつくられたHAGIREのみかんくずゼリーを「喫茶575」にて、いっぺん袋参加者限定（1日あたり先着30名）でプレゼントします。

道後グループ企画　いっぺん袋をぶらさげて歩く

1/15［土］、1/16［日］、1/22［土］　道後上人坂

道後の魅力を詰めた「いっぺん袋」をぶらさげて、上人坂周辺を散歩しませんか。初めて道後に訪れた人も、何度も訪れたことがある人も、よりまち歩きを楽しむことができるはずです。上人坂には正岡子規が詠んだ花にまつわる俳句看板が8つ設置されています。ぜひ探しながら歩いてみてください。イベント期間中の土日は夕方から夜にかけて光を用いたイベントを行います。かつて人々が賑わい溢れた上人坂を皆で作り上げてみませんか。

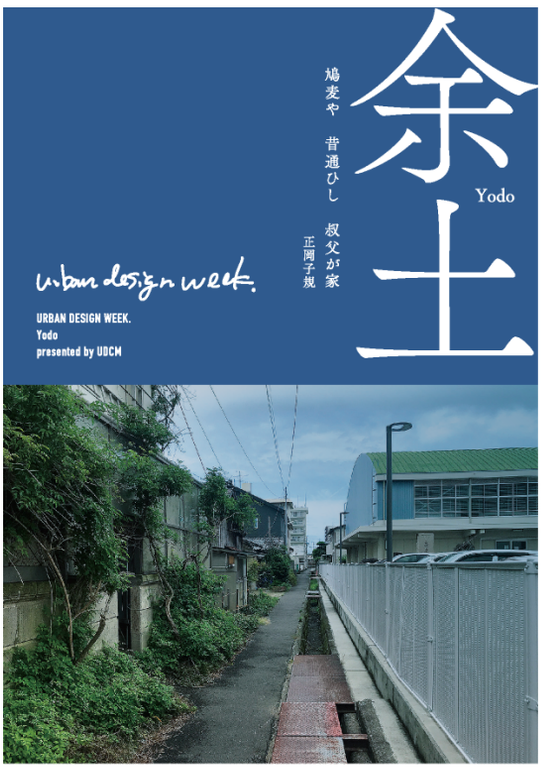
TIME TABLE

当日情報はこちら

DATE ＼ ACTIVITY	こたつの設置（17時-19時）※1	あたたかいお茶（17時-19時）※2	みかんくずゼリー（17時30分-18時30分）※3	「いっぺん袋」でぶらり坂さんぽ
1/14［金］				
1/15［土］	●	●	●	●
1/16［日］	●	●	●	●
1/17［月］				
1/18［火］				「いっぺん袋」の配布
1/19［水］				
1/20［木］				
1/21［金］				灯りのイベント
1/22［土］	●	●	●	●
1/23［日］				

※1／雨天中止
※2／なくなり次第終了・無料
※3／いっぺん袋参加者限定（1日あたり先着30名）・なくなり次第終了・無料

レット（みかん山）



CONCEPT

農地、神社、近代インフラ郊外住宅地の資源と課題を探る

余土グループ
四戸 秀和

写真 元屋地伸広

松山市の郊外住宅地に焦点をあて、歴史的な基盤と戦後形成された市街地を対比しながらまちを歩き、地区の景観の特徴理解と今後のまちづくりの課題を議論することを目的としたスタディツアーを実施します。

立ち寄りスポットは、余土公民館、旧集落域、農地、日招八幡大神社です。それぞれの箇所において解説を行いながら、参加者の方とざっくばらんにお話しできればと思います。

古いものと新しいものの折り重なった景観への理解、そしてそれを踏まえた新しいまちのあり方について語ることは、余土地区のみならず、他の都市化の過程を経た郊外地区を考えることにも繋がります。今回のツアーは、郊外住宅地の現代までの歴史的変遷について学び、その価値について再評価する試みです。

ACTIVITY CONTENTS

将来の地方都市郊外を考える

以下のスポットをご案内してまちあるきします。

●Spot1 余土公民館

まず初めに、余土公民館の資料室を見学します。公民館長に解説していただきながら、近代初期、余土がいかに優れた農村であったかについて学びます。

●Spot2 旧集落、今出街道、長屋門

耕地整理されていない、近世由来の曲がりくねった道や集落などを見てまわります。長屋門は、松山市内に100以上残されている歴史的な建築資源です。正岡子規が通った街道などについてもお話を伺います。

敷地別パンフレッ

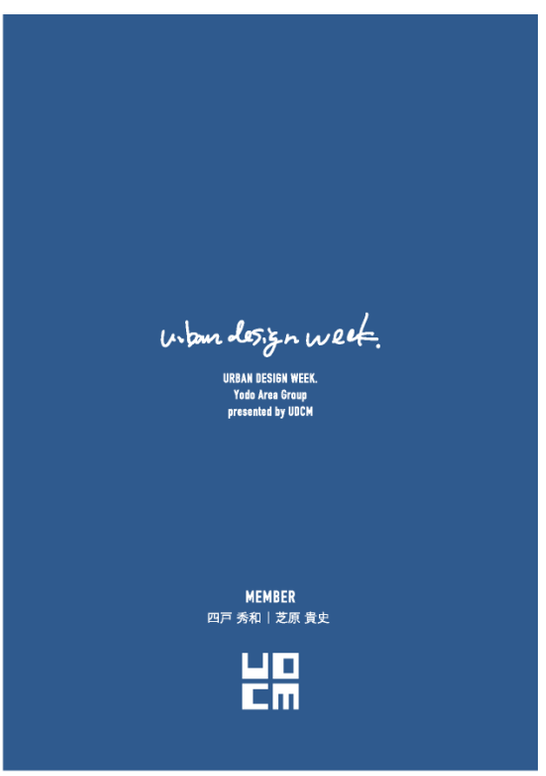
AREA INTRODUCTION

農村由来の土地基盤の上の形成された郊外住宅地

余土 Yodo

余土地区は、松山市中心市街地南部に位置した住宅地域です。明治26年に伊予鉄郡中線の余戸駅が開設され、戦後人口が増加し、市街地化が進行しました。現在地区には2万人を超える方が暮らしていますが、松山市の都市計画においては、こうした郊外拠点の置付けの検討が課題となっています。

余土はもともと農村地域でした。特に近代初期、森盲天外などの功績によって農村改革が進められ、それによって整備された約一反の農地区画や水路網は現在の住宅地の基盤となっています。一方、近代以降のインフラ整備とそれに伴う市街地化によって、古くからある神社が市街地の中に埋もれるなど、景観構造は大きく変化している地域でもあります。



るスタディツアー

●Spot 3 農地

ある調整区域の農地で、行政側及び土地所有者の視点から、農地の維持管理の苦労や問題についてお話を伺います。

●Spot 4 終点 日招八幡大神社

神社境内で見つかった池の保全活用に関する議論についての説明をします。最後にツアーの振り返りをして終了です。

TIME TABLE

当日情報はこちら

ACTIVITY / DATE	まちあるきツアー（余戸駅～日招八幡大神社）（13時、16時）	日招カフェ（日招八幡大神社でベンチ+飲物提供）（だいたい10時、16時）
1/14［金］		
1/15［土］		
1/16［日］		
1/17［月］	●	●
1/18［火］		●
1/19［水］	●	●
1/20［木］		●
1/21［金］		●
1/22［土］		●
1/23［日］	●	●

※スタディツアー／荒天の場合中止とし、当日9時頃までにご連絡します。
※カフェ／雨天時及びスタッフ不在の際、飲物の提供ができない時間帯があります ことご了承ください。

フレット（余土）

3）代替え企画①　トーク企画

トーク企画『アーバンデザイン・トークテラス』は、松山に関わってくださろうとしている建築家、デザイナー、研究者の方々をお招きし、まちについて、松山について、社会実験『urban design week.』について、さまざまに語らう座談会である。社会実験の 1 企画として準備を進めていたが、急遽、完全オンラインに切り替え、2022 年 1 月に実施した。

当日参加したスマートシティスクール受講生だけでなく、多くの方々にトークをご視聴いただくことを目的に 1 月 23 日（社会実験の最終日になる予定だった日）から毎週末、計 7 トークのアーカイブ動画を順次 YouTube 配信した。また urban design week. の SNS（Twitter、Instagram、facebook）にも SNS 向けに再編集したショート動画を投稿するなど、広報活動を行った。

#01 松山と都市デザイン
伊藤 香織　東京理科大学 教授 /UDCM アーバンデザイン・スマートシティスクール プロジェクトディレクター
中出 舞　愛媛大学大学院 修士 1 年 /UDCM アーバンデザイン・スマートシティスクール TA
羽藤 英二　東京大学 教授 /UDCM センター長

#02 街路のデザイン
吉谷 崇　株式会社 設計領域 代表取締役
新堀 大祐　株式会社 設計領域 代表取締役
羽藤 英二　東京大学 教授 /UDCM センター長

#03 道後の小空間
力村 真由　多摩美術大学 副手 /UDCM アーバンデザイン・スマートシティスクール 道後グループメンター
安倍 ひより　愛媛大学 3 回生 /UDCM アーバンデザイン・スマートシティスクール 道後グループリーダー
羽藤 英二　東京大学 教授 /UDCM センター長

#04 駅まちのデザイン
乾 久美子　乾久美子建築設計事務所 主宰
羽藤 英二　東京大学 教授 /UDCM センター長

#05 新しい空間像
西澤 徹夫　西澤徹夫建築事務所
浅子 佳英　PRINT&BUILD/UDCM プロジェクトディレクター
森 純平　東京藝術大学 助教 / 一般社団法人 PAIR 代表理事
羽藤 英二　東京大学 教授 /UDCM センター長

#06 観光とまちづくり
南雲 勝志　國學院大學 教授 / ナグモデザイン事務所 代表 / 日本全国スギダラケ倶楽部 代表
児玉 千絵　國學院大學 助教
仲野 潤一　國學院大學 専任講師
羽藤 英二　東京大学 教授 /UDCM センター長

#07 スクール座談会
スクール関係者（受講生・メンター・TA・運営スタッフ他）
羽藤 英二　東京大学 教授 /UDCM センター長

アーカイブ動画をご覧になりたい方は、下記 QR コードをバーコードリーダーで読み取っていただくか、YouTube にて urban design week. のチャンネルをご検索いただきたい。UDCM のアーバンデザイン・スマートシティスクールのまとめページにも、YouTube へのリンクを掲載している。

アーカイブ動画の QR コード（YouTube）

4）代替え企画②　展示企画

社会実験にて実施予定だった内容などを紹介する展示『未開催展』を、2022 年 3 月から UDCM もぶるラウンジにて開催している。各敷地での活動プランの紹介だけでなく、使用予定だったアイテムや、現地で配付予定だったパンフレット等を展示している。また本展示は、来年度の活動への事前広報を兼ねて、年度をまたぎ、2022 年 9 月までの会期としている

『未開催展』
[展示]
会期：2022 年 3 月 12 日（土）～ 9 月 30 日（金）
会場：UDCM もぶるラウンジ
時間：毎日 10 時～ 17 時
その他：入場無料

フライヤー

展示の様子

（3）プログラム支援

2021 年度もこれまで同様、花園町通りのまちづくり団体である「花園まちづくりプロジェクト協議会」が行う通りの利活用プログラムについて、支援を行った。

今年度は、協議会メンバーから「自分たちで、まつやま花園日曜市の広報用画像を作成、更新できるようになりたい」と相談があったため、協議会メンバーから希望があったソフト（Microsoft PowerPoint）を用いたデザイン案を制作・提案し、操作方法の補助も行った。年度途中からは、協議会メンバーが補助なしで広報用画像を制作できるようになり、地元主体での活動継続に向けて、一つの支援ができたと考えている。また、操作に慣れるまでの間は、学生スタッフが中心となって広報用画像の制作を行ったため、学生スタッフにとっても、多様な角度で、地域やまちづくりに関わることを実感できるよい機会となった。

学生スタッフが制作した広報画像

UDCM が提供したデザイン案を基に
協議会メンバーが制作した広報用画像

（4）今後の展望

今年度は「アーバンデザイン・スマートシティスクール松山」と題して、スクール形式で公共空間の利活用に挑戦した。残念ながら、活動プランの実施の場であった社会実験『urban design week.』は、2022 年度に開催を見送ることになったが、これまで関係性があまりなかった敷地や敷地の関係者の方々と、取り組み実施に向けて協議ができたこと、新たな地域の協力者に巡り合えたこと、そして何より 40 名の受講生に出会えたことは、大きな財産である。

引き続き、社会実験『urban design week.』実施に向けて、また市民が気軽に参加できるプログラムの開発と、地域のプレイヤーと連携したまちの面白い取組み、仕掛けづくりに取り組んでいきたい。

Chapter
03
まちづくり拠点の運営

UDCM のオフィスに併設されている「もぶるラウンジ」は、休憩やトイレ利用に加え、まちづくりに関する書籍・雑誌等の閲覧、まちづくり活動等を中心とした専用利用ができるスペースである。

2021 年度の運営方針を、「コロナ禍の状況をふまえたまちづくり拠点運営を行う。もぶるラウンジ内での展示企画、松山のまちに関する小冊子の制作配布等を行い、適宜ウェブメディアとも連動させた形で情報発信コンテンツの充実化を行う。」とし、取り組んできたもぶるラウンジでの活動、および情報発信について振り返る。

・もぶるラウンジの運営
・連携企画等を通じた情報発信
・花園まちのいろいろ冊子シリーズ
・まつやま歴史まちあるき
・「松山の都市形成史」ウェブ公開

（1）もぶるラウンジの運営

1）COVID-19 に対応した日常管理

COVID-19 の感染拡大状況により、年度当初の 2021 年 4 月 22 日から 5 月 31 日まで、もぶるラウンジ（以降「ラウンジ」）を臨時休館とした。再開後は、昨年度から引き続き、手指消毒のアルコール設置や利用者への案内板の設置、定期的な換気等の対策を行い開館した。

2）利用者推移

今年度（2021 年 4 月～ 2022 年 3 月）のラウンジ利用者数は、延べ 5,090 人、月平均 *1 は、約 463 人（前年度は延べ 5,161 人、月平均は約 641 人）である。

平日休日共に 30 ～ 50 代の利用割合が約半数を占め、前年度と比較すると 20 代の割合が減少している。ラウンジや花園町通りでのイベント開催が見送られた期間もあり、イベント時に訪れていた家族連れや、若い世代の利用減少が影響していると推測される。一方、高齢者の利用割合は増加している。花園町通りの自転車の整備の方がトイレを利用されたり、定期的に利用する高齢者の方を目にするようになった。

*1　臨時休館となった 5 月を除く 11 か月間の利用者数で算出

3）一般利用の動向

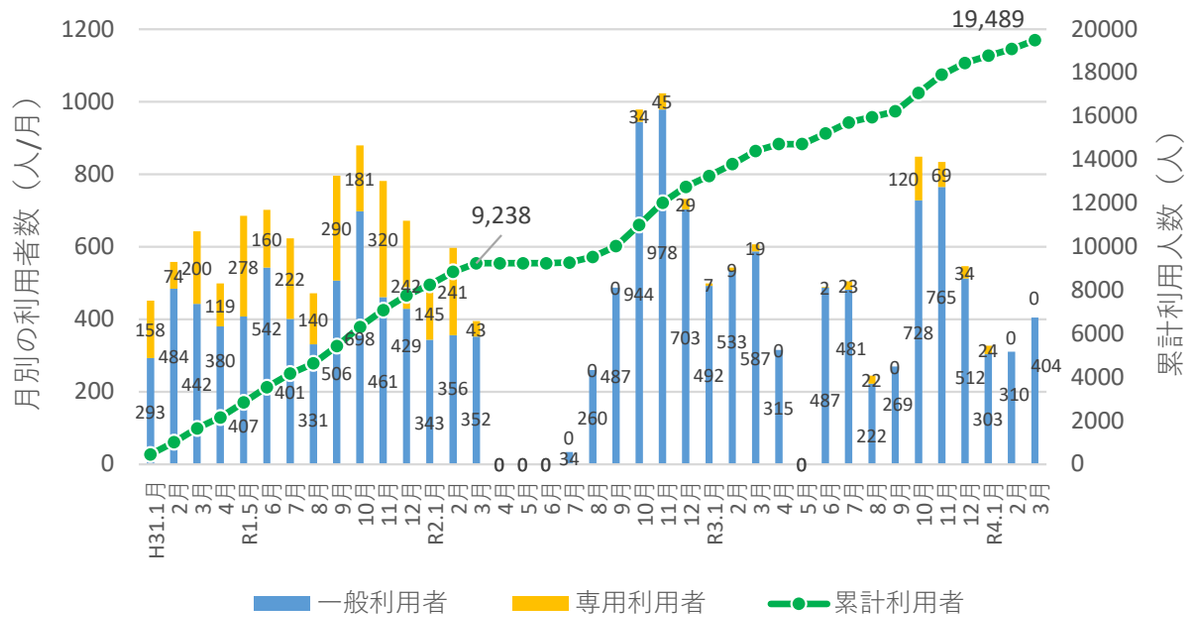
昨年度同様、休憩やトイレ利用、展示物を閲覧する人等は変わらず居るが、利用者は減少傾向のままである。また利用者の大半が、個人または家族連れ、知人との 2 ～ 4 人のグループであり、ラウンジで新たな交流が生まれるような機会を作り出すことは、まだ難しい状態であった。

4）ライブラリーの整備、貸出再開

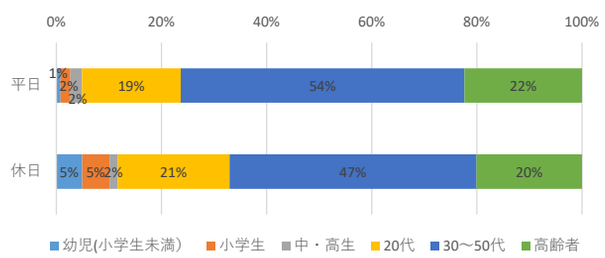
ラウンジ内ライブラリーのジャンル分けを整理し、ジャンルのラベルを新規作成した。図書の貸し出しは、2020 年 4 月より停止していたが、2021 年 10 月より再開した。再開後から 2022 年 3 月末までの貸し出し冊数は 8 冊、現時点での貸し出し登録者数は 184 名である。

ラウンジ利用の様子

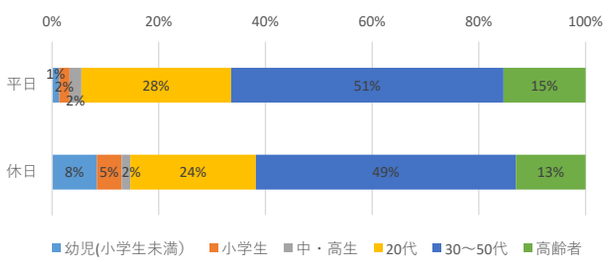
ライブラリーの整備



各月利用者数内訳及び累計利用者数



2021 年度 - 利用者属性（年齢層）



2020 年度 - 利用者属性（年齢層）

5）専用利用の傾向

専用利用の申請件数は 43 件あった。しかし、ラウンジが臨時休館となった期間や、愛媛大学側からの利用許可取り消し等があり、実際に専用利用されたのは 27 件であった。COVID-19 の状況変化を理由に、主催者（申請者）からキャンセルの連絡や場所を変更するといった件も多くあった。

表のとおり、個人利用が約半数の 19 件、その他が組織・団体等での申請である。今年度から始まった「UDNM まちづくり塾」や松山ブンカ・ラボの「文化サポートプログラム　らぼこらぼ」等は、シリーズで連続利用していただいた。他のプログラムも、「信子おばさんの伊予弁紙芝居」「ナチュラルコスメ作り」「まつやま花園日曜市」等は、毎月定期的に繰り返しご利用いただいた。

松山ブンカ・ラボ「文化サポートプログラム　らぼこらぼ」

UDNM　まちづくり塾

専用利用一覧（UDCM の専用利用は除く）

イベント等名称	申請者	日時	人数
このまちのいま × みらい展 （企画展示）	東京大学社会基盤学科	4月10日(土)~6月30日(水) 10:00~17:00	―
ナチュラルコスメ作り	個人	4月24日(土)　10:30~13:30	不許可
		7月3日(土)　10:30~13:30	7
		8月7日(土)　10:30~13:30	4
		11月13日(土)　10:30~13:30	5
		12月11日(土)　10:30~13:30	5
		1月15日(土)　10:30~13:30	不許可
信子おばさんの伊予弁紙芝居	個人	4月24日(土)　14:00~16:00	不許可
		5月22日(土)　14:00~16:00	不許可
		6月26日(土)　14:00~16:00	1
		7月24日(土)　14:00~16:00	1
		8月28日(土)　14:00~16:00	ｷｬﾝｾﾙ
		9月18日(土)　14:00~16:00	ｷｬﾝｾﾙ
		10月23日(土)　14:00~16:00	2
		11月14日(日)　14:00~16:00	5
		12月25日(日)　14:00~16:00	2
		1月22日(土)　14:00~16:00	不許可
		2月26日(土)　14:00~16:00	不許可
		3月26日(土)　14:00~16:00	ｷｬﾝｾﾙ

専用利用一覧（UDCM の専用利用は除く）

イベント等名称	申請者	日時	人数
まつやま花園日曜市本部	花園まちづくり プロジェクト協議会	4月25日(日)　10:00~16:00	ｷｬﾝｾﾙ
		5月23日(日)　10:00~16:00	ｷｬﾝｾﾙ
		6月27日(日)　10:00~16:00	28
		7月25日(日)　10:00~16:00	22
		8月22日(日)　10:00~16:00	ｷｬﾝｾﾙ
		10月24日(日)　10:00~16:00	26
		11月28日(日)　10:00~16:00	22
		12月26日(日)　10:00~16:00	22
UDNM まちづくり塾 2021 「松山のまちの模型と 図鑑をつくろう！」 （全４回・おひろめ会）	松山アーバンデザイン ネットワーク	8月5日(木)　13:00~17:00	18
		8月26日(木)　13:00~17:00	ｷｬﾝｾﾙ
		9月5日(日)　13:00~17:00	ｷｬﾝｾﾙ
		10月3日(木)　13:00~17:00	17
		11月6日(木)　13:00~17:00	15
		12月4日(土)　13:00~17:00	17
		1月9日(日)　13:00~17:00	24
松山ブンカ・ラボ 文化サポートプログラム らぼこらぼ 「演劇をもっと楽しむための 戯曲リーディング ワークショップ」 （全６回）	松山ブンカ・ラボ	10月5日(火)　17:00~22:00	16
		10月12日(土)　17:00~22:00	16
		10月19日(火)　17:00~22:00	16
		10月26日(火)　17:00~22:00	13
		11月2日(火)　17:00~22:00	16
		11月9日(火)　17:00~22:00	ｷｬﾝｾﾙ
松山市駅前広場　社会実験説明会	松山市都市・交通計画課	10月27日(水)　13:00~20:00	4
		10月30日(土)　10:00~17:00	3

（2）連携企画等を通じた情報発信

1）企画展示『このまちのいま × みらい展 MATSUYAMA2020×2050』

会期：2021 年 4 月 12 日（月）～ 6 月 30 日（水）

東京大学社会基盤学科学生有志による企画展示を行った。当初は、4 月 12 日から 5 月 28 日まで展示する予定だったが、ラウンジが 4 月 22 日から 5 月 31 日まで臨時休館となり、期間を 6 月 30 日まで延長した。

また臨時休館中は、主催者から提供いただいたプラン紹介資料と、展示の様子を撮影した動画をホームページに公開し、来館できない方にも見ていただけるように対応した。

フライヤー

展示の様子

2）松山アーバンデザインマップの制作

松山城を中心とした松山中心部のマップを、書き込みが出来るホワイトボードの素材で制作した。花園町通りやロープウェイ街の整備事例の紹介や、UDCMがこれまでに関わってきたプロジェクトについて紹介したパネルも制作し、マップと合わせて松山のまちづくりを知ることができるものとした。

マップ展示の様子

マップ使用の様子

3）「もぶるラウンジ便り」の発行

2020年3月より休止していた「もぶるラウンジ便り」の発行を、2021年9月より再開し、以降毎月発行している。UDCMで行っている企画の紹介や、花園町通りのイベント情報等をまとめ、裏面は「イベントカレンダー」を掲載している。ホームページやSNSで公開、近隣施設への配布・設置を行っている。

表：もぶるラウンジ便り、裏：イベントカレンダー

（3）花園まちのいろいろ冊子シリーズ

1）企画の概要

花園町通りの利活用の様子、UDCM の取り組み内容等をまとめた小冊子シリーズを 2020 年度から発行している。制作・発行の目的は次の 3 点である。

【目的】
- 花園町通りに関する歴史・資料等の収集・整理
- 花園町通りをはじめ公共空間の利活用に関する興味・関心、機運醸成づくり
- UDCM の取り組み内容の広報及びまちづくり活動にかかわる、機運醸成づくり

気軽に手に取ってもらいやすい小冊子にするため、形状や紙面構成を工夫している。具体的には、最大 12 頁を基準とし、小冊子が分厚くなりすぎないようにした。また、主に写真を掲載し、解説文などは最小限に絞り、文章量が多くない、とっつき易い紙面を目指した。

2）取り組み内容

今年度は「ラウンジ活動編」、「通り整備編」、「ラウンジ整備編」の 3 冊（各 400 部）を発行した。また、前年度に発行した「歴史写真編」と「利活用編」の在庫がほぼなくなったため、今年度予算にて増刷（各 200 部）を行い、今年度発行分とあわせて、もぶるラウンジや周辺協力店舗での配布を開始した。

加えて、ウェブ上でも閲覧できるように、UDCM のホームページ内に『花園まちのいろいろ冊子シリーズ』のアーカイブページを設け、小冊子の PDF データを公開した。

3）今後について

今後は他の UDCM プロジェクトとも連携しながら、UDCM の活動と松山のまちに関わる歴史や市民活動の情報発信とアーカイブ化に取り組んでいきたい。

第３弾「ラウンジ活動編」小冊子の表紙・裏表紙

第４弾「通り整備編」小冊子の表紙・裏表紙

第５弾「ラウンジ整備編」小冊子の表紙・裏表紙

花園まちのいろいろ冊子シリーズ

花園町通り等まちの風景、地域の活動、UDCMの取組み、いろんなことを発信するための小冊子をつくりました。UDCMもぶるラウンジ等で配布中です。

第1弾（2021.2発行）
『はなぞの 移り変わる まちの風景』
花園まちの歴史をテーマに、昔と今の写真を集めました。

第2弾（2021.3発行）
『はなぞの いろどる人 にぎわう道』
花園町通りのリニューアルが完了した2017年以降の通りでの活動、主に地元の皆さんとUDCMの活動写真を集めました。

第3弾（2021.7発行）
『はなぞの 遊んで学んで つながる場所』
花園町通りでUDCMが運営する「もぶるラウンジ」での活動写真を集めました。

第4弾（2021.10発行）
『はなぞの 生まれ変わる道 生まれ変わる街』
2017年に完了した花園町通りのリニューアル整備内容について紹介しています。

第5弾（2021.10発行）
『まちの 秘密基地 はじめました』
花園町通りでUDCMが運営する「もぶるラウンジ」の空間・デザインについて紹介しています。

花園まちのいろいろ冊子シリーズのウェブ公開ページ

（4）松山歴史まちあるき

今年度は、前年度から取り組んできた歴史まちあるき映像作品（余土編）の編集作業を行い、YouTube での公開を開始した。今回公開した映像作品は、「松山歴史まちあるき（余土編）」と題して、以下の 4 部構成とした。

表　「松山歴史まちあるき（余土編）」の構成
Part1「余戸の水路」（9:22）
Part2「森盲天外と余土村是」（16:05）
Part3「４つの街道」（8:56）
Part4「出合の渡し」（13:02）

Part1「余戸の水路」では、明治末期から大正期にかけて余土地区で大々的に行われた耕地整理により創設された水路と近世以前からの埋樋について、Part2「森盲天外と余土村是」では、余土村第 2 代村長の森恒太郎（俳号：盲天外）が明治後期に行なった余土村是に関する取り組みについて、Part3「４つの街道」では、余土村を通っていた 4 つの街道の歴史と街道沿いに残る長屋門について、最後の Prat4「重信川と出合の渡し」では、余土地区にあったとされる渡しの歴史についてがまとめられている。いずれも、地域の方と現地を歩きながら歴史を語っていただいた様子を収めたものである。

表　松山歴史まちあるき（余土編）の YouTube 動画再生回数と総再生時間
Part1：797 回、38.3h
Part2：588 回、56.8h
Part3：436 回、23.2h
Part4：339 回、24.6h
※動画公開日 2021/8/24 ～ 2022/3/31 まで

写真　YouTube 再生リストの画面

YouTube で動画を公開した結果、2022 年 3 月 31 日現在では上記の試聴回数・総再生時間となっている。この動画公開は、特に地元の方々から、よく地域の歴史がまとめられていると高評価の声を頂いた。

この余土編作品は、地元協力者の存在があったからこそできたものであった。Part 1 では、松岡武司さん（余戸土地改良区）、森俊一さん（余戸土地改良区常務理事）、兼久芳雄さん（余戸土地改良区常務理事）に、Part2・３・４では、森二朗さん（森盲天外を顕彰する会「一粒米の会」会長）と戸井田樂さん（余土公民館館長）に、事前のヒアリングと撮影に至るまでご協力をいただいた。この場を借りて感謝申し上げます。

次年度は、また別の対象地での映像作品制作を検討する。

（5）「松山の都市形成史」ウェブ公開

2020 年に取り組んだ都市ビジョンの構築に向けたリサーチ「松山の都市形成史」の資料修正とウェブ公開を行なった。資料の構成は表の通りで、全て PDF 資料として閲覧できるようになっている（一部準備中の資料あり）。今後松山のことの考える大学関係者、役場職員、松山への視察者にとって、松山という都市全体の歴史的な文脈の理解の一助となれば幸いである。

また関連ページでは、これまでの都市ビジョン構築に関連した取り組みについてまとめたページも公開している。そこでは、愛媛大学名誉教授の柏谷増男先生の著書『松山市の都市計画道路 - 計画と整備 -』(2020) も公開している。そちらもぜひとも閲覧いただきたい。

【Web リンク】
松山の都市形成史
https://udcm.jp/project/vision/ 都市形成史 2020/

都市ヴィジョン計画準備資料
https://udcm.jp/project/vision/

表　「松山の都市形成史」の構成

1. 中心市街地
   - 1.1 城下町の形成
   - 1.2 駅まちと近代的中心市街地の形成
   - 1.3 戦災復興
   - 1.4 市街地の拡大
   - 1.5 現代の都市整備
2. 道後
   - 2.1 道後温泉の空間構成とその成り立ち
   - 2.2 内湯化と市街地化
   - 2.3 外湯文化の再生
3. 郊外
   - 3.1 三津浜
   - 3.2 余土
   - 3.3 石井
   - 3.4 久米
4. 島嶼
   - 4.1 忽那諸島
   - 4.2 興居島
   - 4.3 中島
   - 4.4 睦野
   - 4.5 神和
   - 4.6 安居島

写真　「松山の都市形成史」ウェブ公開画面

都市ヴィジョン計画準備資料ウェブ公開画面

Chapter
04
研究会、研究活動

研究会活動では、本年度のアーバンデザイン研究会として、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の講義を兼ねるかたちで，講師の方をお招きし、計４回オンラインにて開催した。さらに、４月には「都市展示記念フォーラム」を、３月末には「松山の新たな駅まちづくりシンポジウム」を松山市との共催で開催した。

・アーバンデザイン研究会
・フォーラム、シンポジウムの開催

（1）アーバンデザイン研究会

本年度のアーバンデザイン研究会は、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の講義を兼ねて計4回､オンラインにて開催した｡それぞれの回について、スクール TA を務める学生スタッフのレポートを基に振り返ってみたい。

2021.07.23
Vol.17「アーバンテラスをつくる事例紹介編①」
兼 スクール第 1 回講義
ゲスト講師：
伊藤 香織（東京理科大学 教授）
大山 雄己（芝浦工業大学 准教授）

事例紹介を中心に、２つのレクチャーが行われました。

１つ目のレクチャーでは、伊藤香織氏に『外部空間の使い方』と題して様々な国内外の外部空間の使い方を紹介していただきました。事例の中でもピクニックによる外部空間の使い方として、コミュニティの場として使う方法や、通常は考えもしない場所でのピクニックの開催など驚くような事例の紹介がありました。そこから、素敵なのに使われていない空間や地元に住んでいる人しか知らない空間を見つけて、そこで何か「やってみる」ことで、身近にある外部空間の使い方を考えていくといった視点を学びました。

２つ目のレクチャーでは、大山雄己氏に『データ分析の面白さ』と題してデータ分析を活用したデザイン手法の紹介をしていただきました。今回は災害時の交通量の事例などを用いて、データの分析を工夫して自分なりの理解が得られたときの面白さや、計画やデザインを考える中で新たな分析の切り口（見方）が見つかるときの面白さを紹介していただきました。そこから、データ分析は可視化・集計だけでなく、現象や物事の構造を深く理解できる行為であり、分析の結果が計画の議論やアイディアにつながるといったデータ分析とデザインの関係性について学びました。(TA 桂川)

当日の実施風景

2021.07.30
Vol.18「アーバンテラスをつくるエリア紹介編①」
兼 スクール第 2 回講義
ゲスト講師：
重松 建宏（花園町通り東通り商店街）
山澤 満（道後温泉誇れる街づくり推進協議会）

花園町通りと道後温泉で、それぞれご活躍されているお二方をお招きし、レクチャーをしていただきました。

はじめに、重松建宏氏に『花園町通りエリアの特徴と課題』と題して､1. 花園町通りの整備前の状況､2. 花園町リニューアル整備、3. ハード面・整備後の課題をご紹介いただきました。その中で「ハード整備での受賞を多くする中で、ソフト面でも頑張っていかないといけないと痛感した。」という言葉が印象に残りました。花園町通りの店舗、企業・団体・大学などとの連携体制など、持続可能な商店街を作っていくためのソフト面の重要性を学ぶことができました。スマートシティスクール受講生からは”協働”していくことができる“継続”していくことができるような仕組みを盛り込んだ企画・活動をデザインし、実践していきたいとの声が上がりました。

つづいて、山澤満氏に『道後温泉地域の特徴と課題』と題して、道後温泉周辺の過去と現在の取り組みをご紹介いただきました。まず歩行者優先空間の創出、飛鳥乃湯泉の建設など日本最古の湯の歴史を持つ“道後らしさ”を感じさせるハード整備についての説明がありました。次に、道後温泉本館保存修理工事後を見据えた「本館に頼らないまちづくり」を目指す中で、温泉とアートを組み合わせた”オンセナート”や旧遊郭という歴史を持つ上人坂に焦点を当て、地域住民・産官学など主体間連携の重要性についての説明がありました。スクール受講生からは、特に上人坂での活動に対する関心が高く、上人坂を含めた道後全体の回遊性・歴史的背景を活かした灯りの演出を考えていきたいなど活発な議論が生まれました。（TA 村上）

当日の実施風景

2021.10.08
Vol.19「アーバンテラスをつくる歴史編」
兼 スクール第３回講義
ゲスト講師：
松本 啓治（坂の上の雲ミュージアム 総館長）
胡 光（愛媛大学 教授）
クロストークゲスト：
奥村 敏仁（大和屋本店旅館 代表取締役）
小林 里瑳（東京大学大学院 博士課程）
力村 真由（多摩美術大学 副手）
聞き手：
三谷 卓摩（UDCM ディレクター）

松山の各エリアにまつわる歴史についてゲストの方々にレクチャーやクロストークをしていただきました。

はじめに、松本啓治氏の『松山のまちなかの成り立ち』と題したレクチャーでは、現在の松山ができる背景には、江戸時代に松山城の城下町として栄えていたこと、明治時代に商業が発展したこと、松山大空襲を経て、また戦後復興を通して現在の松山の基盤ができたということを、その時代の土地利用図や貴重な写真を用いてご紹介いただきました。また、これからの活動にそのまま活かせそうな、まちなかにある過去の商店の名残があるビルや、松山に点在する“たぬき伝説”に関する小話等も教えていただきました。

つづいて、胡光氏に『聖地　道後の歴史』と題して、道後の歴史をご紹介いただきました。 多くの方が持っているであろう「道後＝温泉街」といったイメージから一転､「道後＝聖地」という衝撃のお話でした。まず、道後温泉自体は奈良時代から古代の書物にも記載されているほど古い温泉ですが、現在のように観光地化する前は、また違った様子のまちだったというお話です。夏目漱石が『坊ちゃん』を書いた時代、温泉の近くに遊郭があり、主人公の坊ちゃんも遊郭の入口にあるお店で団子を食べたと書かれています。昔のお遍路さんの日記には、札所である石手寺にお参りするだけでなく、道後温泉に入って身体を癒し、近くのお店でもぐさをお土産に帰っていたという話が必ずと言っていいほど書かれているそうです。なにより、かつての人々は温泉が目的ではなく、宝厳寺・伊佐爾波神社へのお参りが目的で道後に来ていたという驚きのお話もありました。他にも湯築城や裏山経塚、石手寺には多くの指定文化財があるという温泉以外の聖地・道後の魅力をご紹介いただきました。そして「歴史はいい面だけではなく、悪い面もある、そういった点を踏まえてどのように変遷してきたのかということを正しく伝えて継承していく必要がある」といった今後の活動に大切な心構えをレクチャーしていただきました。

さいごは、現在検討が進んでいる道後の上人坂について、三谷卓摩氏が聞き手となり、クロストークを行いました。3 名のトークゲストをお招きし、力村真由氏からは、現在設計中の「坂下広場」の設計概要等について話題提供いただき、奥村敏仁氏からは地元の事業者目線での多彩なコメントを、また、小林里瑳氏からは、道後の回遊行動についての分析結果をご発表いただきました。『上人坂の空間再生と効果の見える化』をテーマに、観光客に道後を回遊してもらうために歴史ある上人坂をどうデザインしていくのか、観光客が楽しめるような坂のつくりやプログラムの実施、地域住民と協働した活用方法等についてトークが進み、実現する場合にどういった点に注意が必要なのかといった具体的な話にも発展しました。最前線の話ばかりで道後の今後についてのイメージが膨らむ時間でした。（TA 桂川）

当日の実施風景

2021.11.12
Vol.20「アーバンテラスをつくる事例紹介編②」
兼 スクール第 4 回講義
ゲスト講師：
大村 珠太郎氏（清水建設 スマートシティ推進室　次世代都市モデル開発部）
寺田 基氏（IHI 社会基盤・海洋事業領域 都市 SBU オフィス・商業施設 G）
河村 清美氏（IHI 社会基盤・海洋事業領域 都市 SBU オフィス・商業施設 G）
大野 正夫氏（IHI 技術開発本部 技術基盤センター 数理工学 G）
佐々木 康弘氏（NEC スーパーシティ事業推進本部）
辻 早紀氏（一般社団法人 One Smile Foundation 代表理事）

豊洲スマートシティの取り組みや先端技術について講師の方にレクチャーしていただきました。

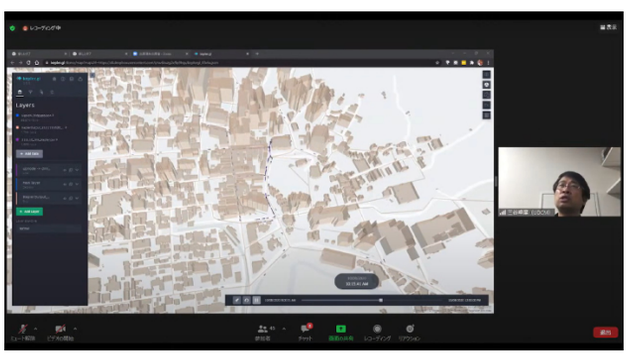
はじめに、大村珠太郎氏に『デュアルモード・ソサイエティにおける交通防災まちづくり ~ 豊洲スマートシティの取組み ~』と題して、ゼネコンならではのスマートシティの取り組みについて、プロジェクト動画を用いながらご紹介いただきました。具体的には、平時には地域の賑わい拠点として、災害時には帰宅困難者の受け入れ施設など防災としての機能を持つ、日本初の “ 都市型道の駅 豊洲 MICHI の駅 ” に係る BIM・CIM，建物 OS”DX-Core”、SHIMZ 都市 OS など、新たなまちづくりについてご紹介いただきました。

つづいて、寺田基氏、河村清美氏、大野正夫氏から『IHI の豊洲スマートシティの取り組みについて ～気象・交通の計測技術を中心に～』と題して、気象センシング技術の超高密度気象観測・情報提供サービス POTEKA の紹介、交通流センシング技術である LiDAR の紹介がありました。前者はピンポイントで

気象を計測でき、閲覧サイトから豊洲だけでなく全国の POTEKA データをリアルタイムで閲覧することができ、特に防災観点で活用されています。後者は、対象物からの反射光などによって距離を測り、その対象の性質を把握できるセンサー技術です。活用先としてm高度道路交通システム (ITS) などを含めた「都市交通の計測とモデリング」について、実際の映像や計測データ、シミュレーションデータなどの動画を用いてご紹介いただきました。

つづいて、佐々木康弘氏から『デジタルツインで創る未来都市〜強靭でスマートなまちづくり〜』と題して、デジタルツイン、先進技術、サービス事例をご紹介いただきました。具体的には、先進技術としてセンサー情報を一元集約管理するデータ連携基盤FIWARE、高い技術を持つ顔認証技術、観測衛星 SAR を利用した地表面の観測による復旧・復興への対応紹介、そしてこれらの技術を使ったサービス事例として、防災情報を一元集約し災害状況を把握し、ＡＩ技術分析にて危険度予測するなどした科学的根拠に基づいた情報で自助・共助・公助による早期避難行動を促進する”逃げ遅れゼロ高度広域防災情報サービス”についてご紹介いただきました。

さいごに、辻早紀氏から『利便性だけじゃダメ！人類全てに優しくあるべきスマートシティ』と題して、利便性を追求していくことが世の中の主流となる中で、必ずしも人々が利便性だけを求めているわけではないのではないかとの考えを、SDGs の中で残り続ける課題と事例を通してご紹介いただきました。具体的には、街中や商業施設に設置された監視カメラや防犯カメラに笑顔認証機能を搭載し、笑顔が検知される度に１笑顔＝１円などの寄付が行われる開発中の仕組みについてです。スクール受講生からは「幸福を定量化し、負の印象がある”監視”から、幸福を検知し寄付を通じて問題解決に繋げ、さらに幸福を生むサイクルが思いつかない発想で面白かった」「住民の幸せを第一に目指して、このスマートシティスクールが都市でのデータの取得と活用を進める第一歩になればいいなと思う」などの感想がありました。(TA 村上)



当日の実施風景

（2）フォーラム、シンポジウムの開催

2021 年 4 月に都市展示を記念したフォーラムを、オンラインにて開催した。その回について振り返る。

なお、2022 年 3 月に松山市と共催したシンポジウムについては、2022 年度の年間報告書にて取り上げる予定である。

2021.04.10
都市展示記念フォーラム /
アーバンデザイン・スマートシティスクール松山
開講準備会

アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の開講準備会を兼ねて、4 月 12 日から UDCM もぶるラウンジにて開催する『このまちの いま×みらい展　MATSUYAMA2020 × 2050』都市展示を記念したフォーラムを開催した。冒頭に、今回のフォーラムの発案者である羽藤英二氏（UDCM センター長 / 東京大学教授）が、新たに始める『アーバンデザイン・スマートシティスクール松山』の主旨や、今年度スクールのテーマである「アーバンテラスをつくる」についての羽藤氏自身の考えについて述べた。

第 1 部は『新たな交通拠点のデザイン、追浜バスタの地域展開』と題して山崎敦広氏（国土交通省横浜国道事務所調査課長）に基調講演をしていただき、大山雄己氏（芝浦工業大学准教授）と羽藤氏を交え、討議を行った。

第 2 部は羽藤氏をコーディネーターとして『スマートシティ・プランニングによる都市デザイン』をテーマに学生案の発表と討議を行った。まずは都市展示の主催者である東京大学社会基盤学科 4 年生有志の 4 名（今井氏、小川氏、増橋氏、望月氏）から大学演習での提案をまとめた動画の披露と、演習中の議論の内容や個々の考えについてご発表いただいた。その後、吉谷崇氏（株式会社設計領域代表取締役）と石井朋紀氏（松山市都市整備部コンパクト・プラス・ネットワーク推進官）を加え、学生案を基に討議を行った。

第 3 部も羽藤氏をコーディネーターとして『松山のアーバンテラスのつくりかた』をテーマに話題提供と討議を行った。まずは板東ゆかり氏（UDCM ディレクター）からこれまで UDCM で取り組んできた中心市街地賑わい再生社会実験とアーバンデザインスクールでのプログラム開発についての話題提供があった。続いて中出舞氏（UDCM 学生スタッフ / 愛媛大学大学院修士 1 年）からは、自身が参加したアーバンデザインスクール 3 期での提案などを中心に、これまでの自身の活動についてご発表いただいた。最後に、三谷卓摩氏（UDCM ディレクター）を加えて、今年度予定している「アーバンデザイン・スマートシティスクール松山」での展望について議論した。

本フォーラムのアーカイブ動画は YouTube にて公開している。詳細な討議内容などをご覧になりたい方は、下記 QR コードをバーコードリーダーで読み取っていただくか、YouTube にて UDCM のチャンネルをご検索いただきたい。

アーカイブ動画の QR コード（YouTube）

都市展示記念フォーラムの開催案内

Chapter
05
支援事業

支援事業では、都市郊外のあるべき姿を検討することの一環として、日招八幡大神社池の改修計画の支援を行った。池の改修案の提案と並行し、郊外地域の公共空間としての境内全体のリニューアルといった長期的な視点を含めた検討結果の提示を行った。ほかに、積極的な社会参画の力を養うことを目的に、小学生を対象とした「小学生版UDNM まちづくり塾 2021」を愛媛大学地域デザイン研究室の学生スタッフと一緒に実施した。本章ではその詳細について述べる。

・日招八幡大神社、池の改修計画支援
・UDNM まちづくり塾 2021

（1）日招八幡大神社、池の改修計画支援

1）計画支援の経緯

2021 年 2 月、松山市余土地区にある日招八幡大神社境内で古い池が見つかり、同年 7 月 UDCM に相談があった。その内容は、この池の歴史性を保存しながら、地域の方々、特にこどもたちが遊べるような親水空間に改修できないかということであった。

UDCM では、今後の都市郊外のあるべき姿を検討することを目的として、前年度から余土地区等を対象とした調査研究及び動画制作（「松山歴史まちあるき」）等の取り組みを行なっていた。今回の依頼は、こうした取り組みの延長（具体的空間設計への展開）にあるものと位置付けられる。また、戦後大きく変化した郊外地区の景観構造の再構築を、どの地区にも存在しかつ行政的に位置付けることが難しい神社という普遍的な存在に着目し解決策を模索することは、郊外地区の再編計画の検討において汎用性のあるテーマであると考え、計画支援を行うに至った。

2）日招八幡大神社の概要

日招八幡大神社は、589 年に「門嶋の森に門嶋比咩神社また門嶋神社と称えた」のが起源とされ、その後石清水八幡宮と称するようになったが、1184 年、砥部城主、荏原城主との合戦の際、軍扇で入日を招くと日が差昇り勝利を得ることができたとして、現在の名に近い日招八幡宮と改称されたと伝えられている。同神社は、松山八社八幡の一つ（五番）に位置付けられていた経緯があり、旧郷社であったことからも、松山市においても重要な神社の一つとして位置づけられる。

松山市保免に立地し、境内には、近世後期から明治初期に作られたと考えられる神門や門嶋橋（橋は公道に残されている）、石灯籠や石碑等の歴史文化資源が数多く残されている。今回の計画対象となる池は、近世後期または明治初期に形成されたのではないかといわれる。

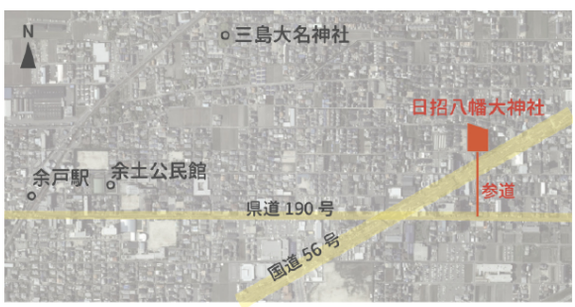


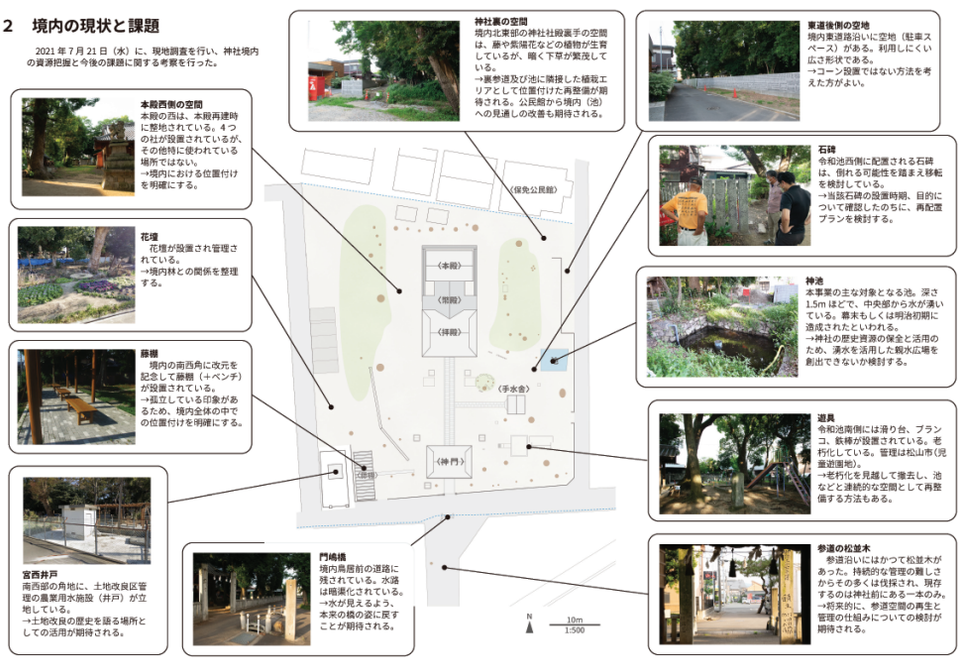
図 日招八幡大神社の位置（下図：地理院地図）

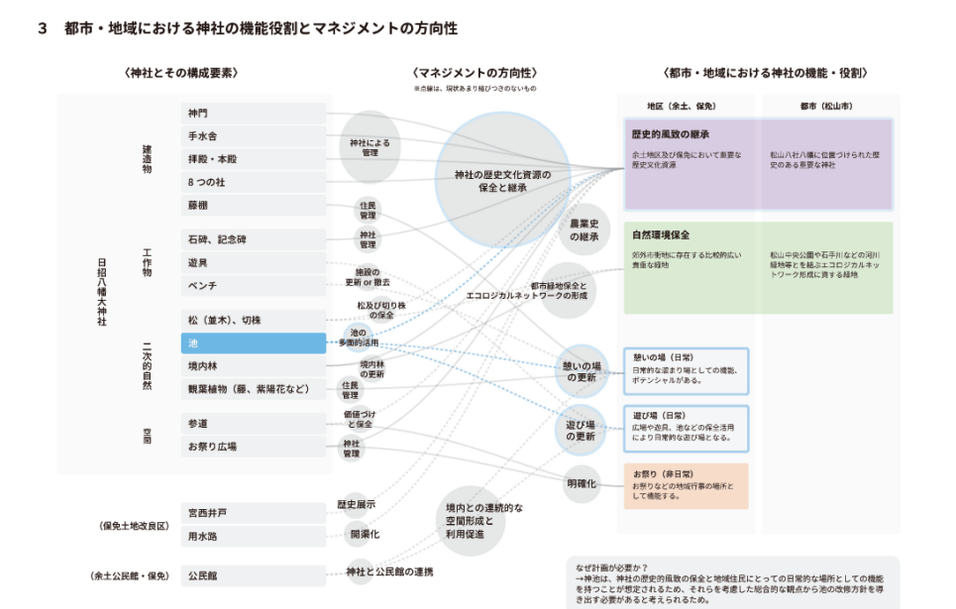
3）8/7（土）検討会での提案

相談を受けた翌月の 8/7（土）19:00 より、余土公民館保免中分館にて神社関係者との検討会が行われた。UDCM は依頼から 2 週間ほどの期間で現地調査をふまえた提案書を作成し、検討会においてプレゼンテーションを行なった（提案資料の一部は次頁に掲載）。提案では、具体的に依頼のあった池の改修案の検討と並行し、地域における公共空間としての境内全体のリニューアルに向けた長期的な検討を行っていくことを強調した。

神社関係者からは、そうした検討の方向性に異論はなかったが、他の地域団体や地域住民を巻き込むことや資金調達の難しさなどの意見が出された。UDCM としてはこれまでの活動で蓄積されたノウハウを活用し、地域団体・住民の巻き込み方や、市の補助制度活用などについてもサポートしていくことを提案した。2 回目の検討会はコロナ感染状況の悪化により延期となったままであるが、今後も引き続き、計画支援を行っていく予定である。

写真　8/7（土）の検討会の様子

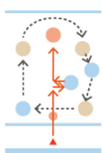




提案書の一部（上：現地調査に基づく境内に位置する資源、下：地域における神社の位置付け）

4　日招八幡大神社 , 境内空間再構築ビジョン

コンセプト



水と鳩をめぐる神社

資源をめぐる回遊式の境内に

水を連想させるもの…
手水舎 , 令和池 , 清水 , 池 , 井戸 , 水路 , 瀬戸内海

丘を連想させるもの…
門鳴 , 境内林（鎮守の森）, 多島美

目的

1 | 歴史資源の保全と継承

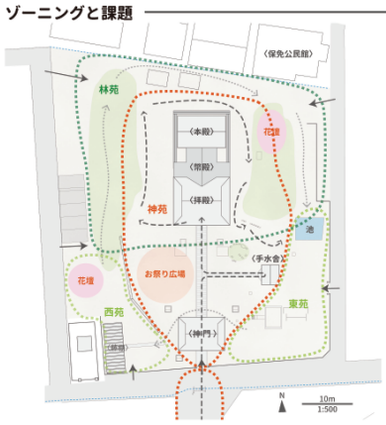
日招八幡大神社に残されている歴史資源を後世に継承するため、その保全と資源へのアクセス、触れる機会の提供を目的とする

2 | 自然資源の保全と活用

境内林やその他植栽、清水など、境内にある自然資源を保全し、それらを活用することを目的とする。郊外住宅地の緑地として自然環境資源との接点を盛り込んだルート及びその空間とする。

→それぞれの資源を歩けるルートを設定し、
歩ける神社化を目指す。

ゾーニングと課題



神苑
神社の最も神聖なエリア

- **参道の保全**
  →松並木跡地の保全及び舗装の変更等による参道の都市空間における顕在化
  →門前橋の水路開渠化（結界の強調）
- **8 社めぐりのルート強化**
  →必要に応じてルート誘導の仕掛けを配置
- **お祭り広場の位置付け強化**
  →日招太鼓の舞台、露店配置などの場として位置付け

名付けることや、ルートを表現することが重要

奥苑
本殿を覆う深い森のエリア

- **林苑計画**
  →奥に行くほど深い森林に
  →後継樹の育成
- **裏側入口の整備**
  →境内北部境界部分の林苑形成
  →公民館から境内内部への眺め、見通しの確保
  →公民館開口部の改修（境内側の開口部を広げるなど）

庭苑
拝殿手前の明るい活動空間

- **東苑（神池と遊具が設置されている場所）**
  →池の親水空間としての整備、保全活用
  →遊具の撤去と池と連続した遊び場の創出
  →滞在・休憩機能の配置（ベンチ等）

本計画の主な対象

- **西苑（藤棚と花壇のある場所）**
  →花壇の維持管理、林苑との一体的な空間形成
  →土地改良区施設を生かした歴史展示

5　境内における東苑の位置付け

街路に接する場所
ポイント：「見通し」

街路に接するエリアであるため、境内の中の様子が外から見える場所である。上層は森に囲まれつつも、手水舎や拝殿、奥の森への見通しを確保することで、神聖な神社空間を表現する。

参拝後に辿り着く場所
ポイント：「休憩」

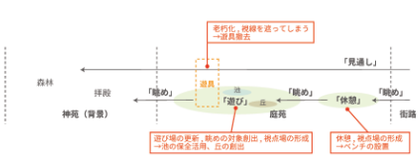
本神社の参拝ルートは時計回りが通例である。そのため、本殿での参拝後、8 社をめぐると辿り着くのがこの東苑となる。参拝者は神社空間の景色を眺めながら参拝後の静かな時間を過ごす場所があるとよいのではないかと考える。

神社の資源が見える
ポイント：「眺め」

南東角に位置する東苑からは、神門、手水舎、拝殿、池、またお祭りの際には、お祭り広場での人々の活動が眺められる。境内の景色を楽しめる視点場としての機能を強化していくことが重要であると考えられる。

池、遊具がある
ポイント：「遊び」

東苑には、池（改修前）や遊具が設置されている。これらは遊びの機能を有しているが、現状のままでは一体的な遊び空間として機能しない。池は浅く し緩水公園的に整備し、遊具は老朽化を見越した撤去と池と連続的な遊び空間の形成が期待される。



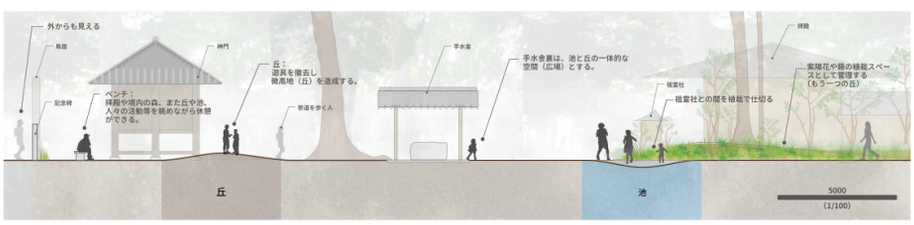
東苑デザインの方向性

街路、東苑それぞれからの眺めの確保と、それらの背景となる神苑空間への見通しを確保する。また、遊び場の遊具は、老朽化とともに見通しを遮る障害物となるため撤去し、代わりに当神社及び瀬戸内のモチーフとして相応しい丘を配置することで、遊び場としての機能を更新しながら、丘そのものが視点対象及び視点場として機能させることができる。休憩機能としては、遊び場、神苑側に向けてベンチを設置する。

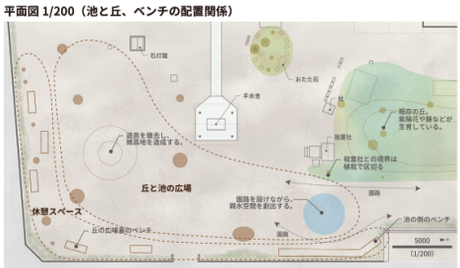
提案書の一部（上：境内再編ビジョンとゾーニング、下：池のあるゾーンの特徴分析）

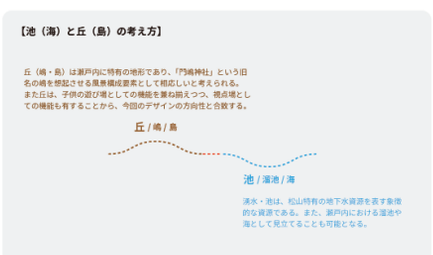
6　東苑の改変案

立面図 1/100（境内東境界から神苑（内部）への眺め）



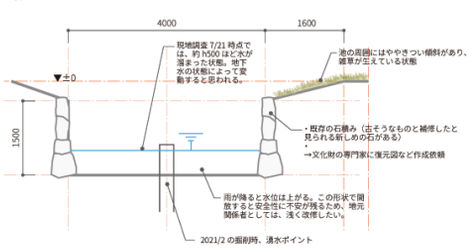
平面図 1/200（池と丘、ベンチの配置関係）



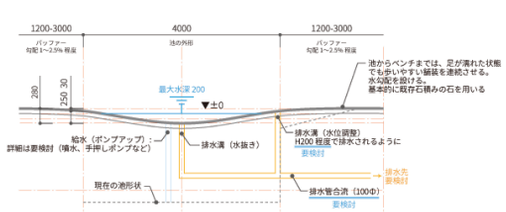


１０　池の詳細について

〈現状〉



〈改修案〉



〈事例〉

みんなのひろば（松山市湊町）
直径約4m、深さ 30cm のすり鉢状の池。池底に噴水が設置され、水を溜めたい時に排水溝に栓をする仕様。池の大きさ深さは、左下の改修案とほぼ同じ。小さい子どもが遊べる仕様になっているため参考になる。

杖ノ淵公園（松山市高井）
河川形状の親水公園。水深は 10-15cm 程度。水辺から 2-3m ほど舗装材が連続している。写真はやや急勾配だが、今回の場所は園路に接することもあり、なだらかな傾斜にする必要がある。

川口並木元町近隣公園（川口市）
噴水と排水溝がランダムに設置された平面的な水遊び場。地面素材の切り替えなどが参考になる。

グランフロント大阪（大阪市）
水辺を階段状にして木陰をつくり、座れる空間を設けている。水遊びしている子どもの見守りや、水のそばで休憩できるような空間形成の参考になる。

提案書の一部（上：池のあるゾーンの改修イメージ、下：池の改修断面図イメージと事例）

（2）UDNM まちづくり塾 2021

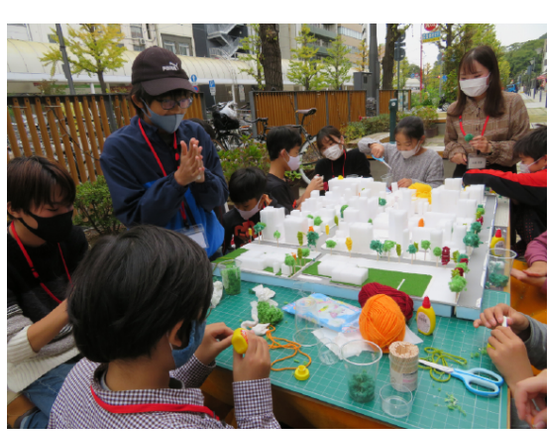
2021 年 8 月から 2022 年 1 月まで約半年間、一般社団法人 松山アーバンデザインネットワーク主催の「まちづくり塾」が、もぶるラウンジを会場に開催された。

松山のまちを立体的に表現する「模型づくり」と、まちの面白いところを詳しく調査する「図鑑づくり」を行うプログラムで、松山に住む 9 名の小学生が参加した。愛媛大学地域デザイン研究室の学生 7 名もスタッフとして一緒に活動し、全 4 回の講座（新型コロナウイルス感染症の影響により、途中で延期・短縮開催となった）で、模型と図鑑が完成した。

フライヤー

第 1 回は、花園町通り～城山公園を歩きながら気になるものを探して写真を撮る、まち歩きからスタートした。第 3 回では、花園町通りにこたつを出して、その上で模型作りを行った。最終回は、保護者の方や一般の方にもご参加いただき、模型と図鑑の「おひろめ会」を開催した。

第 1 回：まち歩きの様子



第 3 回：模型作りの様子

「おひろめ会」フライヤー

模型と写真展示の様子（1）

おひろめ会の様子

模型と写真展示の様子（2）

完成した模型は、「おひろめ会」終了後ラウンジ内で展示、子どもたち 1 人 1 人が製作した図鑑 9 種類は、「松山のまち図鑑集」として一つの冊子にまとめ、ラウンジ内で設置、投げ銭制で配布した。

まちづくり塾は、松山の「今」を観察し、「これから」を考えることを通して、意味を多角的に考える力、社会への関わり方を選択する力、積極的な社会参画の力を養うことを目的として開催され、2022 年度も開催を予定している。

完成した「松山のまち図鑑集」

おわりに

UDCM 副センター長
松村 暢彦

「限界なき学習」という書籍をご存知でしょうか。この書籍は、ローマ・クラブ第 6 レポートとして 1980 年に発行されました。ローマ・クラブというと「成長の限界」を思い浮かべる人も多いと思います。「成長の限界」は人口増加や環境汚染などの現在の傾向が続けば、100 年以内に地球上の成長は限界に達することを世界の叡智を集めて具体的な数値で示しました。それに比べて「限界なき学習」はそれほど有名ではありません。しかしこれが書かれた 40 年前よりも今の方がこの本の内容のニーズが高まっていると思います。

この書籍の基本概念として「ヒューマン・ギャップ」が用いられます。これは、社会の「進化」と呼ばれる変化に対して人間の理解が追い付いていないことを指していて、このギャップが更に拡大することへの懸念を表明しています。このヒューマン・ギャップを埋めるために個々の人間が持つ潜在的な能力を学習によって高めていこうというのが基本的な戦略で、それにはまず、「先見：Anticipation」と「参加：Participation」を中心とした学習方法に変革していく必要があることを説いています。学習といっても単に知識を得る行為ではないという視点が今なお新鮮です。

COVID-19 の終息への道のりがまだまだ不透明な中、今ほど「先見」が求められる時はないでしょう。この 2 年の間に、消費や余暇の形態が大きく変わりました。街の中で時間を使うことが壊滅的になくなり、ネットを通じた娯楽に興じるようになりました。だからといってこのまま推移すると人、まち、空間が切り離された貧しい社会に陥ってしまいます。そうならないためにも、人とまちを結び付ける出来事を作って行く必要があります。そのささやかな取り組みの一つが UDCM で取り組んでいるアーバンデザイン・スマートシティスクール松山や社会実験「urban design week.」、まつやま花園日曜市への支援になります。

また、MaaS など新しい社会システムが交通の分野でも導入され、社会の「進化」がとまりません。新しいテクノロジーを駆使した街をイメージして、スマートシティと呼ぶことも多いですが、重要なのはこうした新しいテクノロジーにわれわれが使われるのではなく、テクノロジーを使う側になり続けるためには、「未来を見通す目」を養い、「主体的に課題に取り組む」資質や態度を学習によって身に着けていくことが必要になります。単に自動運転技術を取り入れ、電気自動車が走ればスマートシティではなく、それらのテクノロジーを使って街のどのような課題を解消しえるのか（しえないのか）、そのためには誰が何に取り組み始める必要があるのか等、考えて社会に問いかけていく必要があります。こうした人材を育てていくために、小中高等学校において総合的な学習の時間が導入され、主体的・対話的で深い学びの試行錯誤が続いています。こうした学びは、学校教育だけで終わらせるのではなく、生涯教育の観点から社会に組み込んでいく必要があります。単に知識を得るためだけの学びではなく、時間をかけて主体的に他者とともに課題に取り組む参加機会を確保していくことがこれからより一層求められます。UDCM においても小学校から大人までの学びの場を保証していくことが引き続き求められると思います。

資料

・活動履歴
・委員 / 講演 / 視察対応 / 受賞
・運営体制

活動履歴

2021 年 4 月
10（土）：都市展示記念フォーラム / アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 開講準備会
12（火）：スマートシティ防災 mtg#1
：企画展示『このまちのいま×みらい展　MATSUYAMA2020 × 2050』もぶるラウンジにて開催（～ 6/30）
22（木）：もぶるラウンジ臨時休館（～ 5/31）
23（金）：松山スマートシティ推進コンソーシアム実証実験報告会

2021 年 5 月
10（月）：アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 受講生募集（～ 5/17）
11（火）：一般社団法人 UDNM 総会
17（月）：UDCM 運営会議　#1
20（木）：スマートシティ防災 mtg#2
29（土）：土木学会四国支部第 27 回研究技術発表会 (三谷)

2021 年 6 月
1（火）：もぶるラウンジ一般利用を再開
4（金）：もぶるラウンジ専用利用の申請受付を再開
8（火）：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#1
20（日）：お城下マルシェ花園（主催：花園まちづくりプロジェクト協議会）広報協力
21（月）：UDCM 運営会議　#2
27（日）：まつやま花園日曜市（主催：花園みんなで創るプロジェクト実行委員会）開催支援

2021 年 7 月
1（木）：アーバンデザイン・スマートシティスクール協力事業者募集（～ 7/30）
：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#2
5（月）：大分市商店街グループ視察対応
6（火）：第 18 回都市再生協議会
：防災・まちづくりに関わる最新の学術・技術開発シンポジウム (三谷発表)
8（木）：豊洲スマートシティ連携 mtg#1
14（水）：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#3
：ブンカラボ郊外視察アテンド
20（火）：花園まちのいろいろ冊子シリーズ第 1 弾『はなぞの 移り変わるまちの風景』再版
：花園まちのいろいろ冊子シリーズ第 2 弾『はなぞの いろどる人にぎわう道』再版
：花園まちのいろいろ冊子シリーズ第 3 弾『はなぞの 遊んで学んで つながる場所』発行
21（水）：日招八幡大神社現地調査
23（金）：アーバンデザイン研究会 Vol.17「アーバンテラスをつくる事例紹介編①」/ アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 第 1 回講義
25（日）：まつやま花園日曜市（主催：花園みんなで創るプロジェクト実行委員会）開催支援
26（月）：UDCM 運営会議　#3
28（水）：スマートシティ防災 mtg#3
30（金）：アーバンデザイン研究会 Vol.18「アーバンテラスをつくるエリア紹介編①」/ アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 第 2 回講義

2021 年 8 月
5（木）：UDNM まちづくり塾 2021　第 1 回
7（土）：日招八幡大神社関係者との打ち合わせ #1
24（火）：映像作品「松山歴史まちあるき（余土編）」の公開
25（水）：スマートシティ防災 mtg#4
26（木）：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#4
28（土）：愛媛経済新聞「アーバンデザイン･スマートシティスクール松山」掲載

2021 年 9 月
2（木）：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#5
3（金）：アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 中間発表会
6（月）：愛媛新聞「アーバンデザイン・スマートシティスクール松山」掲載
10（金）：UDCM 運営会議　#4
30（木）：一般財団法人地域活性化センター主催 令和 3 年度全国地域リーダー養成塾修了者研修会（四戸登壇）
：ヴィジョン（都市形成史リサーチ）ミーティング #16

2021 年 10 月
1（金）：もぶるラウンジライブラリー図書の貸出再開
3（日）：UDNM まちづくり塾 2021　第 2 回
8（金）：アーバンデザイン研究会 Vol.19「アーバンテラスをつくる歴史編」/ アーバンデザイン・スマートシティスクール 第 3 回講義
9（土）：for Cities Week 2021 京都会場 視察（板東）（～ 10/10）
12（火）：スマートシティ防災 mtg#5
14（木）：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#6
17（日）：お城下マルシェ花園（主催：花園まちづくりプロジェクト協議会）広報協力
18（月）：UDCM 運営会議　#5
24（日）：まつやま花園日曜市（主催：花園みんなで創るプロジェクト実行委員会）開催支援
25（月）：日本都市計画学会査読付論文「地方都市郊外の旧村地域における動的景観構造 - 愛媛県松山市余土地区及び久米地区の農地景観の変遷過程に着目して -」都市計画論文集掲載
26（火）：第 3 回復興デザイン会議全国大会 復興デザイン見学ツアー 視察（三谷・板東・竹内）
27（水）：水路と陸路で巡る夜の城下町マイクロ観光実証～水都まつえ・土曜つながナイト～ 視察（三谷・板東）
28（木）：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#7
：花園まちのいろいろ冊子シリーズ第 4 弾『はなぞの 遊んで学んで つながる場所』発行
：花園まちのいろいろ冊子シリーズ第 5 弾『まちの 秘密基地 はじめました』発行
29（金）：都市マネジメント分科会 #1

2021 年 11 月
4（木）：「松山アーバンデザインマップ」完成、もぶるラウンジに設置
5（金）：日本都市計画学会全国大会エクスカーション②『いで湯と城と文学のまち、松山の都市基盤を探る』実施
6（土）：日本都市計画学会全国大会 第 56 回論文発表会（四戸発表）
：UDNM まちづくり塾 2021　第 3 回
8（月）：山口大学、宇部市ほか視察対応
：石巻まちづくりまんぼう視察対応

12（金）：第 19 回都市再生協議会
：アーバンデザイン研究会 Vol.20「アーバンテラスをつくる事例紹介編②」/ アーバンデザイン・スマートシティスクール 第 4 回講義
13（土）：道後学第 2 回「投資効果まちづくり勉強会」(三谷発表)
15（月）：UDCM 運営会議　#6
18（木）：都市交通調査のあり方検討会事前協議
19（金）：スマートシティ防災 (三津現地踏査)
21（日）：お城下マルシェ花園（主催：花園まちづくりプロジェクト協議会）広報協力
26（月）：展示「写真コンテスト」応募作品（11 月分）（～ 12/27）
25（水）：都市マネジメント分科会 #2
28（日）：まつやま花園日曜市（主催：花園みんなで創るプロジェクト実行委員会）開催支援

2021 年 12 月
3（金）：アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 活動プラン発表会
：JSTE シンポジウム (三谷発表)
4（土）：UDNM まちづくり塾 2021　第 4 回
16（木）：都市交通調査のあり方検討会 #2
：スマートシティ防災 (三津防災ワークショップ #1)
18（土）：全国 UDC 会議（UDC フォーラム 2021）オンライン参加（三谷・板東・竹内）
19（日）：お城下マルシェ花園（主催：花園まちづくりプロジェクト協議会）広報協力
20（月）：UDCM 運営会議　#7
22（水）：周南市　スマートシティ視察対応
23（木）：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#8
：公民館プロジェクト mtg#1
26（日）：まつやま花園日曜市（主催：花園みんなで創るプロジェクト実行委員会）開催支援
28（火）：社会実験『urban design week.』開催発表

2022 年 1 月
6（木）：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#9
9（日）：UDNM まちづくり塾 2021　おひろめ会
11（火）：令和 3 年度 四国づくり勉強会 参加（三谷・板東）（～ 1/12）
：社会実験『urban design week.』開催延期決定
12（水）：社会実験『urban design week.』開催延期発表
14（金）：社会実験『urban design week.』代替え企画（スマートシティスクール受講生向けオンライントーク配信）（～ 1/23）
20（木）：都市交通調査のあり方検討会 #3
23（日）：アーバンデザイン・トークテラス #01「松山と都市デザイン」YouTube 配信開始
27（木）：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#10
29（土）：アーバンデザイン・トークテラス #02「街路のデザイン」YouTube 配信開始

2022 年 2 月
6（日）：アーバンデザイン・トークテラス #03「道後の小空間」YouTube 配信開始
10（木）：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#11
13（日）：アーバンデザイン・トークテラス #04「駅まちのデザイン」YouTube 配信開始
14（月）：UDCM 運営会議　#8
15（火）：日立京大ラボ　スマートシティ視察対応（オンライン会議）
：アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 受講生意向調査（～ 2/23）
17（木）：都市交通調査のあり方検討会 #4
18（金）：和歌山市　スマートシティ視察対応（オンライン会議）
20（日）：アーバンデザイン・トークテラス #05「新しい空間像」YouTube 配信開始
24（木）：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#12
27（日）：アーバンデザイン・トークテラス #06「観光とまちづくり」YouTube 配信開始

2022 年 3 月
6（日）：アーバンデザイン・トークテラス #07「スクール座談会」YouTube 配信開始
7（月）：UDCM 運営会議　#9
8（火）：都市マネジメント分科会　#3
10（木）：アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 代替え企画（スマートシティスクール受講生インタビュー撮影）（～ 3/20）
12（土）：『未開催展』@ UDCM もぶるラウンジ（～ 9/30 予定）
：アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 花園グループ活動プラン実施（～ 3/31）
14（月）：アバンアソシエイツ、鹿島建設、NTT 都市開発視察対応
22（火）：一般社団法人 UDNM 理事会
24（木）：松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#13
30（水）：松山の新たな駅まちづくりシンポジウム
31（木）：都市ビジョン構築に向けた関連資料、活動報告のまとめページの公開

委員 / 講演 / 視察対応 / 受賞

〈委員〉

● 未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会（委員）：吉田
● 河原デザイン・アート専門学校教育課程編成委員会（委員）：板東
● スマートシティ官民連携プラットフォーム都市マネジメント分科会（提案者）：三谷，吉田

〈講演〉

● 道後学　第 2 回投資効果まちづくり勉強会＠愛媛大学法文学部本館
「道後歩行回遊分析に基づくシミュレーションモデルの開発とその適用」：三谷
● 第 3 回 JSTE シンポジウム - 次世代モビリティの社会実装に向けた課題と展望 - ＠松山コミュニティセンター
「松山都市圏を対象としたデータ駆動型都市プランニングによるスマートシティの実現」：三谷
● 一般財団法人 地域活性化センター 令和 3 年度全国地域リーダー養成塾修了者研修会 @ オンライン
「松山アーバンデザインセンターの仕組みと取り組み」：四戸

〈視察対応〉

① UDNM 視察対応事業
● 大分市商店街グループ _5 名、2021.7.5（月）
● 都市計画学会（エクスカーション）_17 名、2021.11.5（金）
● 石巻まちづくりまんぼう、東北大 _2 名、2021.11.8（月）
● 山口大学、宇部市ほか _3 名、2021.11.8（月）
● アバンアソシエイツ、鹿島建設、NTT 都市開発 _4 名、2022.3.14（月）

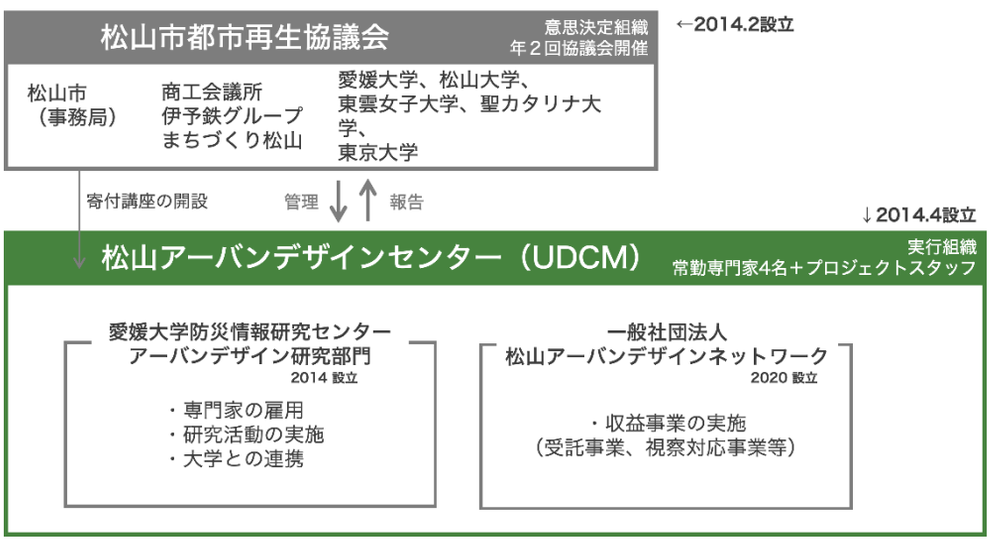
②スマートシティほか
● 周南市 _2 名、2021.12.22（水）
● 日立京大ラボ _ オンライン会議、2022.2.15（火）
● 和歌山市 _ オンライン会議、2022.2.18（金）

〈受賞〉

● 令和 4 年度都市景観大賞（景観まちづくり活動・教育部門）：優秀賞
「アーバンデザイン・スマートシティスクール松山」
● 2021 年日本都市計画学会年間優秀論文賞
地方都市郊外の旧村地域における動的景観構造
- 愛媛県松山市余土地区及び久米地区の農地景観の変遷過程に着目して -
都市計画論文集 , Vol.56-3, pp.1061-1068, 2021：四戸，羽藤，中出

運営体制

〈組織構成〉



〈スタッフ〉

（※は常勤スタッフ）

センター長	羽藤 英二（東京大学）
副センター長	松村 暢彦（愛媛大学）
	羽鳥 剛史（愛媛大学）
ディレクター	三谷 卓摩（愛媛大学）※
	四戸 秀和（愛媛大学）※
	板東 ゆかり（愛媛大学）※
	吉田 英生（愛媛大学）※
	竹内 仁美（愛媛大学）※
アシスタントディレクター	日野 順子（愛媛大学）※
事務スタッフ	大野 利恵（愛媛大学）※
プロジェクトディレクター	片岡 由香（愛媛大学）
	松本 啓治（坂の上の雲ミュージアム）
	石飛 直彦（復建調査設計）
	福山 祥代（日産自動車）
	伊藤 香織（東京理科大学）
	大山 雄己（芝浦工業大学）
	力村 真由（多摩美術大学）
	芝原 貴史（東京大学）
	古谷 純（日立製作所）
	吉田 純土（国土交通省中国地方整備局）
	岡田 栄司（いよぎん地域経済研究センター）
	園部 修也（愛媛銀行ひめぎん情報センター）
	小野 悠（豊橋技術科学大学）
	浅子 佳英（PRINT & BUILD）
	曲田 清維（愛媛大学）
	井上 昌善（愛媛大学）
	河内 俊樹（松山大学）
	野方 円（松山東雲女子大学）
	山中 亮（愛媛大学）
	有吉 美恵（聖カタリナ大学）
プロジェクトアドバイザー	千代田 憲子（愛媛大学）
	泉谷 昇（NPO 法人いよココロザシ大学）
プロジェクトサポート学生スタッフ	村上 悠斗　桂川 大誉
	木下 朋香　石井 雄一郎
	中出 舞　木村 亮斗
	石上 紗己　安倍 ひより
	川中 榛名　濱田 優唯
	山本 彩名　米山 明日香
	松尾 悠馬

松山アーバンデザインセンター
年間報告書 2021